

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	幹線道路整備事業（2級8号）	事業期間	平成 27 ~ 32 年度	整理番号	05010306
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	伊藤 琢弥
				連絡先	506

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実
				細施策	01	生活道路整備、維持管理の推進
				事務事業	01	主要道路整備事業
	予算事業名			会計コード	001	款 08 項 02 目 03 事業 06
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	市道2級8号線は、県道槻木矢ヶ崎線と諏訪中央病院線を結ぶ路線であるが、一部狹隘道路を解消するためバイパスルートを開削する必要が生じた。本事業により、狹隘道路の解消とともに中央病院北側の粟沢地区方面からのアクセス性が向上し、安心安全なまちづくりに寄与するものである。				
	現状と背景 （どうして）	現状の2級8号線は道路幅員が狭く、生活道路としての機能を果たしていない。また、広田地区圃場整備事業の中で幹線道路の建設が必要になった。これらの課題を解消するため、2級8号の道路改良工事を行い中央病院へのアクセスを向上させることが必要になった。				
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象	受益者 （誰のために）	市道利用者及び沿線住民		
		対象 （直接働きかける）	沿線の関係者（土地所有者、住民等）			
		意図	生活道路の確保、交通環境の改善、交通事故の防止、および交通の円滑化を図る。			
	手段・方法 （どうやって）	広田地区ほ場整備事業と本事業を関連させながら、効率的に事業を進める。				
N （ ）	活動指標 の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		詳細設計	詳細設計延長	m	詳細設計実施延長	1,040
		改良道路	道路改良延長	m	工事施工延長	1,040
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		詳細設計	詳細設計進捗率	%	詳細設計実施延長／道路改良計画総延長	100
		改良道路	改良工事進捗率	%	工事施工延長／道路改良工事総延長	100

項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
事業費等 (a)	円				12,744,000	261,000,000	
財源内訳							
国庫支出金	円				4,550,000	143,550,000	
県支出金	円						
地方債	円				8,194,000	105,700,000	
その他特定財源	円						
一般財源	円					11,750,000	
職員数	人				0.25	0.25	
正規職員	人						
嘱託職員	人						
臨時職員	人						
合計	人				0.25	0.25	
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	円	-	-	-	228.00	4,696.00	
D （ ）	活動指標	詳細設計延長	目標	m		320	1,040
			実績	m		320	1,040
	道路改良延長	目標	m			0	0
		実績	m				
	-	目標	%			100.00	100.00
		実績	%				
O （ ）	成果指標	詳細設計進捗率	目標	%		30	100
			実績	%		90	100
	改良工事進捗率	目標	%			300.00	100.00
		実績	%			0	0
	-	目標	%			-	-
		実績	%			-	-
備考							

事務事業名	幹線道路整備事業（2級8号）	事業期間	平成 27 ~ 32 年度	整理番号	05010306
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	伊藤 琢 弥
				連絡先	506

期	目 標	実 績	課 題
第1期	国の交付金内示を受け道路詳細測量設計の着手に向けて準備を進める。	道路詳細設計の委託業務発注準備を進めた。	ほ場整備事業(バイパス部)と道路改良部の進め方について庁内協議を行い、方針を明確にする必要がある。
第2期	交付金内示額が満額ではないことから、ほ場整備事業地内の詳細設計委託を発注する。	単費予算を投入し、測量・設計委託業務を発注完了した。	交付金が思うように確保できないことで、事業速度が遅くなる恐れがある。今後地元区への説明会と地権者との用地交渉に重点を置いていく。
第3期	事業経過報告と今後の事業説明を地元区へ行っていく。設計業務が進むに伴い、現地の境界立会いを実施し、用地交渉へと入っていきたい。	現地の境界立会いを実施した。	立会に欠席した地権者がいたため、そうした場所は改めて立ち合いの必要がある。また、未登記道路があるためこれらの解消が必要となる。設計中であり買収面積は未確定。
第4期	買収面積を確定し、用地交渉を本格始動する。	一部を除き買収面積が確定した。	未登記道路の処理をしたうえで買収するべき敷地が確認できた。用地交渉にまでに整理する必要がある。

事 中 評 価				
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止 方 向 性	②	⑤	⑦
交付金が確保できないことで、単独費を充当し詳細設計を行っている。来年度は用地買収に着手したいが、交付決定額に応じて買収範囲が決まるため事業速度が遅くなる恐れがある。		③	⑥	⑨
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）		④	⑧	⑩
新年度は、圃場整備区域外の地権者と交渉をおこない、建物及び用地補償を実施する。		①		
		皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性		

評価年度	当年度
------	-----

評 価 課 題	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A

評 価 課 題	記号の定義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要														
	前年度総合評価判定 新規事業 前年度評価シート整理番号														

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	ほ場整備内を通り中央病院へアクセスするバイパス道路となる。関係事業と連携しながら狭隘道路の解消も図れる必要な事業である。	ほ場整備内を通り中央病院へアクセスするバイパス道路となる。関係事業と連携しながら狭隘道路の解消も図れる必要な事業である。					ほ場整備内を通り中央病院へアクセスするバイパス道路となる。関係事業と連携しながら狭隘道路の解消も図れる必要な事業である。			
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性									

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	今 後 の 方 向 性	成 果 の 方 向 性	拡 充	②	⑤	⑦	成 果 の 方 向 性	拡 充		
		現 状 維 持	③	⑥	⑨		現 状 維 持		レ	
		縮 小	④	⑧	⑩		縮 小			
		休 廃 止	①				休 廃 止			
		皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性			
改 革 ・ 改 善 策	交付金の交付率が厳しくなっているが、積極的に交付金を取り入れながら事業推進に向け取り組んでいく。					交付金の交付率が厳しくなっているが、積極的に交付金を取り入れながら事業推進に向け取り組んでいく。				

最終評価年月日	平成28年4月4日	最終評価責任者	建設課長	篠原 尚一
---------	-----------	---------	------	-------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	生活道路整備事業	事業期間	平成 27 ~ 27 年度	整理番号	05010301
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	両角敏行
				連絡先	506

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実
				細施策	01	生活道路整備、維持管理の推進
				事務事業	02	生活道路整備事業
	予算事業名	生活道路整備事業費			会計コード	001 款 08 項 02 目 03 事業 01
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	市道を改良することにより、生活道路の確保、交通環境の改善を行い、もって交通事故の防止を図り、あわせて交通の円滑化に資することを目的とする。				
	現状と背景 （どうして）	道路幅員が狭く、生活道路としての機能を果たしていない。円滑な交通が確保されていない。道路ストックおよび付属道路施設等が老朽化してきている。				
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象 （誰のために）	受益者 市道利用者及び沿線住民			
		対象 （直接働きかける）	沿線の関係者（土地所有者、住民等）			
		生活道路の確保、交通環境の改善、交通事故の防止、および交通の円滑化を図る。				
	手段・方法 （どうやって）	道路改良のみならず、道路側溝（水路）、舗装、法面等道路に付随する構造物も整備していく。地元区要望書に対する対応についても、きめ細やかな対応ができるように努める。				
N （ ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		活動指標	年度内工事実施率	実施率	%	
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		工事整備率	整備率	%	(年度内整備済延長)/(年度内計画整備延長)	100

項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
事業費等 (a)	円	162,412,000	187,730,320	192,035,000	358,371,760	448,804,000	
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円		6,747,000	8,281,000	9,000,000	
	地方債	円		6,100,000	7,500,000		
	その他特定財源	円					
一般財源	円	162,412,000	174,883,320	176,254,000	349,371,760	82,904,000	
職員数	正規職員	人	3.10	3.15	3.10	2.55	
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人					
	合計	人	3.10	3.15	3.10	2.55	
対象（者）数	人						
延利用（者）数 (b)	人						
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	円	2,893.00	3,354.00	3,430.00	6,402.00	8,360.00	
活動指標	実施率	目標	%	100	100	100	100
		実績	%	70	70	70	90
	達成率	%	70.00	70.00	70.00	90.00	
	-	目標	-				
		実績	-				
	達成率	%	-	-	-	-	
成果指標	整備率	目標	%	100	100	100	100
		実績	%	100	100	100	100
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	
	-	目標	-				
		実績	-				
	達成率	%	-	-	-	-	
備考							

事務事業名	生活道路整備事業	事業期間	平成 27 ~ 27 年度	整理番号	05010301
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	両角敏行
				連絡先	506

期	目標	実績	課題
第1期	年度内工事発注箇所を精査し、全体工程を見た中で、発注計画を立案する。 冬期間における舗装損傷度が激しいことから、今後の整備計画を策定する。	小工事から大規模工事までの発注見通し計画は策定できた。 市内全域において、舗装調査を実施し今後の整備計画に用いる状況調査が完了した。	舗装整備実施に伴う財源の確保
第2期	工事発注が本格的になることから、工事監理並びに早期な工事発注に心掛ける。 直営による橋梁点検業務を行う。	・予定工事(予算)の78%の実施及び発注済み ・舗装修繕集中工事の前倒し発注(77%)	・舗装修繕集中工事については、残りの予定工事を年内に完了させる。(補正予算成立後の発注分)
第3期	舗装工事のみならず、他工事についても工事が最盛期を迎えることから、現場監理に重点をおき、現場トラブルや事故が発生しないように努める。 年内には予定工事はすべて発注済みとした。	・予定工事(予算)の93%の発注及び着工 ・舗装修繕集中工事の発注(100%)	・冬季の工事現場について、適正な工事監理を行う。
第4期	・年度内に、すべての工事を竣工、検了する。 ・新年度工事発注に向け、地元調整、設計等の準備を進める。	・地元等の要因で発注出来なかった工事を除き、年度内に、工事を竣工、検了した。 ・新年度工事発注に向け、早期に担当割を行い、地元調整、設計等の準備を始めた。	・年度末に要望された箇所の確認、地元調整、判断を的確に行う。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 ・新たに舗装修繕集中工事が実施されることにより、業務量が增大した。	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止 性
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
チェック					4					4					4	A
課題	各区からの要望書により事業を計画しているが、境界トラブル、用地寄付承諾の手続き等で地元調整がつかないため未着手箇所が増加している。 この冬の凍上により破損した舗装が市内各地で見られ、経年によるひび割れに加えて、車両走行にも支障が生じる恐れのある道路が増えてきました。															
記号の定義	A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定	A															
前年度評価シート整理番号	05010306															

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	各区から提出される道路関係の要望書は特に多いことから、これら施設がいかに市民にとって生活に密着しているかを物語っている。 道路の性質上延長も長いことから、毎年の修繕ではなかなか追いつかない現状である。	各区から提出される道路関係の要望書は特に多いことから、これら施設がいかに市民にとって生活に密着しているかを物語っている。 道路の性質上延長も長いことから、毎年の修繕ではなかなか追いつかない現状である。					各区から提出される道路関係の要望書は特に多いことから、これら施設がいかに市民にとって生活に密着しているかを物語っている。 道路の性質上延長も長いことから、毎年の修繕ではなかなか追いつかない現状である。			
前年度改革・改善策の実施状況	一部実施					前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 (ACTION)	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	成果の方向性	拡 充		②	⑤	⑦	拡 充			
方向性	現 状 維 持		③	⑥	⑨	現 状 維 持		④		
方向性	縮 小		④	⑧	⑩	縮 小				
方向性	休 廃 止	①				休 廃 止				
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				
改革・改善策	修繕した道路がある程度の耐久性を確保するには、路盤等を入れていく必要がある。コストが多少高くなっても、耐久性を重要視していくべきと考える。また、技術革新により少しでもコストが下げられ、且つ効果が得られる工法を研究していく必要がある。 市民が毎日利用している宿中道路の整備も今後重点的に整備していく必要がある。(幹線道路は交付金を利用し、宿中道路は単費対応していく)					修繕した道路がある程度の耐久性を確保するには、路盤等を入れていく必要がある。コストが多少高くなっても、耐久性を重要視していくべきと考える。また、技術革新により少しでもコストが下げられ、且つ効果が得られる工法を研究していく必要がある。 市民が毎日利用している宿中道路の整備も今後重点的に整備していく必要がある。(幹線道路は交付金を利用し、宿中道路は単費対応していく)				

最終評価年月日	平成28年4月4日	最終評価責任者	建設課長	篠原尚一
---------	-----------	---------	------	------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名		道路・水路管理事務		事業期間	平成	～	年度	整理番号	05010101							
担当部署		都市建設部		建設課	管理係		作成担当者名	後藤 浩行	連絡先	502						
計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり										
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実										
				細施策	01	生活道路整備、維持管理の推進										
				事務事業	02	生活道路整備事業										
	予算事業名							会計コード	001	款	08	項	01	目	01	事業
事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	未登記道路の解消、道路台帳整備、官民界の境界確認、占用事務などにあたり、市の道路、水路を管理する。															
現状と背景 （どうして）	道路、水路は住民の生活に密着しており、これらの管理を怠ると、その健全な利用が損なわれやすいため。															
目的	受益者 （誰のために）	直接・間接を問わず、道路・水路を利用する全ての人。														
	対象 （直接働きかける）	所有地が個人名義のまま市道認定されている人、境界確認の申請者、占用の申請者など利害関係者、またはその物件。														
的	意図 （どんな状態にしたいか）	道路、水路の存在、適正利用を名実ともに確保する。														
手段・方法 （どうやって）	未登記道路の解消、道路台帳整備、官民界の境界確認、占用事務などにあたる。															
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値							
		未登記土地の解消	未登記解消筆数	筆	未登記土地の解消筆数				60							
		道路・水路の境界確認	境界確認件数	件	境界確認に至った件数				270							
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値							
		未登記土地の解消	未登記解消筆数	筆	未登記土地の解消筆数				60							
		道路・水路の境界確認	境界確認件数	件	境界確認に至った件数				270							

実 施 状 況 （ D O ）	項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）
			事業費等 (a)	円	59,317,135	22,264,195	17,910,210
財 源 内 訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
職 員 数	一般財源	円	59,317,135	22,264,195	17,910,210	24,725,529	26,632,000
	正規職員	人	8.00	8.00	7.00	6.00	6.00
	嘱託職員	人	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00
	臨時職員	人					
	合計	人	10.00	10.00	9.00	8.00	8.00
対 象 （ 者 ） 数	対象（者）数						
	延利用（者）数 (b)						
	単位コスト (a)/(b)	円	—	—	—	—	—
	受益者負担額	円					
市 民 一 人 当 た り の コ ス ト	市民一人当たりのコスト	円	1,056.00	398.00	320.00	442.00	1,377.00
	未登記解消筆数	目標	60	60	60	60	60
		実績	76	42	53	48	60
	境界確認件数	目標	270	270	270	270	270
実績		300	298	267	264	270	
—	達成率	%	126.67	70.00	88.33	80.00	100.00
	達成率	%	111.11	110.37	98.89	97.78	100.00
成 果 指 標	未登記解消筆数	目標	60	60	60	60	60
		実績	76	42	53	48	60
	境界確認件数	目標	270	270	270	270	270
		実績	300	298	267	264	270
達成率	%	126.67	70.00	88.33	80.00	100.00	
達成率	%	111.11	110.37	98.89	97.78	100.00	
備考							

事務事業名	道路・水路管理事務	事業期間	平成	～	年度	整理番号	05010101
担当部署	都市建設部	建設課	管理係	作成担当者名	後藤 浩行	連絡先	502

期	目 標	実 績	課 題
第1期	未登記道路の解消、道路台帳整備、官民界の境界確認、占用事務などにあたる。	未登記処理3筆	境界確認については、不動産売買、公共事業実施などに伴って事業の必要が発生するため、計画化して事業を進めることが困難。
第2期	未登記道路の解消、道路台帳整備、官民界の境界確認、占用事務などにあたる。	未登記処理22筆	境界確認については、不動産売買、公共事業実施などに伴って事業の必要が発生するため、計画化して事業を進めることが困難。
第3期	未登記道路の解消、道路台帳整備、官民界の境界確認、占用事務などにあたる。	未登記処理5筆	境界確認については、不動産売買、公共事業実施などに伴って事業の必要が発生するため、計画化して事業を進めることが困難。
第4期	未登記道路の解消、道路台帳整備、官民界の境界確認、占用事務などにあたる。	未登記処理18筆	境界確認については、不動産売買、公共事業実施などに伴って事業の必要が発生するため、計画化して事業を進めることが困難。

事 中 評 価																					
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 消費税増税前に案件処理が急増するなど、経済状況などに影響を受けやすく、事務の平準化は困難。	今 後 の 方 向 性																				
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	方 向 性																				
	<table border="1"> <tr> <td>成 果 的 方 向 性</td> <td>拡 充</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td></td> <td>現 状 維 持</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td></td> <td>縮 小</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td></td> <td>休 廃 止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性</p>	成 果 的 方 向 性	拡 充	②	⑤	⑦		現 状 維 持	③	⑥	⑨		縮 小	④	⑧	⑩		休 廃 止	①		
成 果 的 方 向 性	拡 充	②	⑤	⑦																	
	現 状 維 持	③	⑥	⑨																	
	縮 小	④	⑧	⑩																	
	休 廃 止	①																			

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A
課題	平成18年の新不動産登記法施行により、立会い範囲の拡大、測量用地の増加により1件当たりの処理時間が増加している。また、未相続の土地もあるため、相続人が多数となり寄附の承諾書受領に多大の時間を費やしている。未登記道路は、抵当権が設定されている場合もある。これも解消できない原因の一つである。															
記号の定義	A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定	A															
前年度評価シート整理番号																

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	毎年、継続的に未登記処理にあたっているため、確実に解消されつつある。また申請に基づいて境界確認にあたり、適正な占用がされるよう事務にあたっている。						毎年、継続的に未登記処理にあたっており、確実に解消されつつある。また申請に基づいて境界確認にあたり、適正な占用がされるよう事務にあたっている。			
前年度改革・改善策の実施状況	一部実施					前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	今 後 の 方 向 性	成 果 的 方 向 性	拡 充	②	⑤	⑦	成 果 的 方 向 性	拡 充		
		現 状 維 持	③	⑥	⑨		現 状 維 持		レ	
		縮 小	④	⑧	⑩		縮 小			
		休 廃 止	①				休 廃 止			
		皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性			
改 革 ・ 改 善 策	未登記処理にあたっては、税務課の課税台帳による確認なども併用して進める。					未登記処理にあたっては、税務課の課税台帳による確認や立会いからの情報も活かしながら地元と連携して進める。				

最終評価年月日	平成28年4月4日	最終評価責任者	建設課長	篠原 尚一
---------	-----------	---------	------	-------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	橋梁長寿命化修繕事業	事業期間	平成 27 ~ 27 年度	整理番号	05010304
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	伊藤 琢 弥
				連絡先	506

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実
				細施策	01	生活道路整備、維持管理の推進
				事務事業	03	橋梁修繕事業
	予算事業名	橋梁修繕事業費			会計コード	001 款 08 項 02 目 03 事業 04
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	今後老朽化する茅野市の道路橋（以下「橋梁」という。）の増大に対応するため、長寿命化修繕計画に従って事後的な修繕から予防的な修繕へと政策転換をしている。重要度の高い橋梁から、修繕工事のための調査を行い工事を実施する。				
	現状と背景 （どうして）	橋梁の高齢化と劣化が急速に進んでいる。				
	目的 的 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	受益者 （ 誰 の た め に ）	すべての橋梁を渡る人、橋梁の下を通る車両等。			
		対象 （ 直 接 働 き か け る ）	茅野市が管理する橋梁			
		意図 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	延命化を図るため橋梁の損傷を改善する。			
	手段・方法 （ ど う や っ て ）	橋梁毎に、損傷や重要度に見合った修繕工事を実施する。				
N （ ）	活動 指 標 の 作 成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		橋梁修繕計画	計画策定橋梁数	橋	修繕計画策定橋梁	263
		橋梁補修	補修橋梁数	橋	補修橋梁	92
	成 果 指 標	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		橋梁修繕計画	計画策定橋梁数	%	（策定済橋梁数）／（全体橋梁数）	100
		橋梁補修	補修橋梁数	%	（補修済橋梁数）／（全体橋梁数）	100

実 施 状 況 （ ）	項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
			事業費等 (a)	円	2,137,960	80,800,000	13,917,516	40,591,770
財 源 内 訳	国庫支出金	円		44,440,000	7,654,000	22,325,473	52,250,000	
	県支出金	円					38,400,000	
	地方債	円				16,430,000		
	その他特定財源	円						
職 員 数	一般財源	円	2,137,960	36,360,000	6,263,516	1,836,297	4,350,000	
	正職員	人	0.35	0.10	0.20	0.50	0.50	
	嘱託職員	人						
	臨時職員	人						
	合 計	人	0.35	0.10	0.20	0.50	0.50	
D （ ）	対象（者）数							
	延利用（者）数 (b)							
	単位コスト (a)/(b)	円	—	—	—	—	—	
	受益者負担額	円						
O （ ）	活動 指 標	計画策定橋梁数	目標	橋	51			
			実績	橋	51			
		達成率	%	100.00	—	—	—	
	補修橋梁数	目標	橋		4	2	1	2
		実績	橋		4	2	1	2
		達成率	%	—	100.00	100.00	100.00	100.00
	—	目標	—					
		実績	—					
		達成率	%	—	—	—	—	
	成 果 指 標	計画策定橋梁数	目標	%	263			
実績			%	263				
		達成率	%	100.00	—	—	—	
補修橋梁数		目標	%		4	2	1	2
	実績	%		4	2	1	2	
	達成率	%	—	100.00	100.00	100.00	100.00	
備 考								

事務事業名	橋梁長寿命化修繕事業	事業期間	平成 27 ~ 27 年度	整理番号	05010304
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	伊藤 琢 弥
				連絡先	506

期	目 標	実 績	課 題
第1期	国の交付金内示を受け、修繕橋梁が横断している河川の管理者(長野県)と協議し、工事着手に向けて準備を進める。	NEXCOとの委託業務協議、橋梁修繕委託業務の発注が完了できた。	NEXCOとの協定締結に毎年時間がかかることから、早めの事前協議が必要となる。
第2期	工事着手に向けた河川協議等をを進めていく。	新道橋の補修修繕工事が発注完了となった。また、NEXCOの点検委託も一般コンサルタントへ委託発注完了することができた。	高速道路の跨道橋点検については、昨年度までNEXCOに委託していたが、今年度は一般コンサルへ委託した。次年度以降の委託方針を見極めていきたい。
第3期	修繕工事並びに高速道路跨道橋の剥落防止委託工事と点検委託業務を進めていく。	新道橋の補修工事は10%進捗した。また、高速道路跨道橋の剥落防止委託工事も90%の進捗率となっている。	河川区域内の行為が濁水期に限定されたため、橋脚の補修は11月以降となってしまった。コンクリートの品質管理を適切に行う必要がある。
第4期	繰越事業にならないよう、年度内に補助事業を完成させる。	補修工事および高速道路関係の委託工事を工期内に完成することができた。	高速道路管理者が計画している高速道路の補修工事のスケジュールによって、市が計画している高速道路跨道橋の修繕や点検が制限される場合がある。

事 中 評 価				
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止 性	②	⑤	⑦
高速道路の跨道橋点検については、昨年度までNEXCOに委託していたが、今年度は一般コンサルへ委託した。次年度以降の委託方針を見極めていきたい。		③	⑥	⑨
高速道路の剥落防止工事は、多額の費用を要することから修繕速度が落ち		④	⑧	⑩
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)		①		
新年度は、木舟大橋、御狩野二の橋(高速道路跨道橋)、及びNEXCO委託工事2橋を予定している。		皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性		

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A
課題	橋梁は市の管理する道路施設であり、重要な施設である。限られた予算で安全性を確保するために、修繕費を抑えた効率的な補修を行う必要がある。															
記号の定義	A:計画どおり事業を進めることが適当 B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定	A															
前年度評価シート整理番号	05010305															

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後					
	橋梁は資産価値の高い重要な施設である。施設を長기에利用するためには今以上の劣化進行を防ぐのに有効な事業であるため、課題である補修内容の変更に柔軟に対応し、計画通り事業を進める。	橋梁は資産価値の高い重要な施設である。施設を長기에利用するためには今以上の劣化進行を防ぐのに有効な事業であるため、課題である補修内容の変更に柔軟に対応し、計画通り事業を進める。									
前年度改革・改善策の実施状況	一部実施					前年度細施策評価における今後の方向性					

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	橋梁の健全度を高く保ちながらも少ない費用で補修を行える計画とし、費用対効果を十分に精査する。	橋梁の健全度を高く保ちながらも少ない費用で補修を行える計画とし、費用対効果を十分に精査する。								
今後の方向性	成果の方向性	拡 充	②	⑤	⑦	成果の方向性	拡 充			
	現 状 維 持		③	⑥	⑨		現 状 維 持		④	
	縮 小		④	⑧	⑩		縮 小			
	休 廃 止	①					休 廃 止			
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				

最終評価年月日	平成28年4月4日	最終評価責任者	建設課長	篠原 尚一
---------	-----------	---------	------	-------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	道路ストック点検・修繕事業	事業期間	平成 27 ~ 27 年度	整理番号	05010305
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	伊藤 琢 弥
				連絡先	506

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実
				細施策	01	生活道路整備、維持管理の推進
				事務事業	03	橋梁修繕事業
	予算事業名	道路橋法定点検委託事業費			会計コード	001 款 08 項 02 目 03 事業 05
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	道路法に基づき、トンネル、橋等について5年に1回の近接目視による点検等を規定する道路法施行規則の一部を改正する省令が平成26年3月31日公布され、平成26年7月1日より施行された。この改正により、茅野市の管理橋梁496橋（平成27年5月現在）について、5年以内に全て点検を行い、その後、5年毎に定期点検することが義務化された。				
	現状と背景 （どうして）	橋梁の高齢化と劣化が急速に進んでいる。橋梁の定期点検を行い、橋梁の最新の状態を把握するとともに、次回の定期点検までの措置の必要性の判断を行う上で必要な情報を得るために行う。				
	目的 （どんな状態にしたいか）	受益者 （誰のために）	すべての橋梁を渡る人、橋梁の下を通る車両等。			
		対象 （直接働きかける）	茅野市管理する橋			
		意図	損傷の度合いを調べ、損傷の修繕方法・時期を明らかにする。			
	手段・方法 （どうやって）	「道路橋定期点検要領」（平成26年6月 国土交通省道路局）に従い、橋梁の部材ごとに近接目視や打音調査等を行う。点検結果は要領に指定されている様式により取りまとめるを行う。				
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		橋梁点検	点検橋梁数	橋	点検橋梁	503
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		橋梁点検	点検橋梁数	%	(点検済橋梁数) / (全体橋梁数)	100

項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
事業費等 (a)	円				34,668,000	39,000,000	
財源内訳							
国庫支出金	円				19,067,400	21,450,000	
県支出金	円						
地方債	円				2,300,000		
その他特定財源	円						
一般財源	円				13,300,600	17,550,000	
職員数	人			0.10	0.30	0.30	
正規職員	人						
嘱託職員	人						
臨時職員	人						
合計	人			0.10	0.30	0.30	
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	円	-	-	-	619.00	737.00	
D （ ）	活動指標	点検橋梁数	目標	橋	50	160	104
			実績	橋	50	154	104
		達成率	%	-	100.00	96.25	100.00
		目標	-				
O （ ）	成果指標	点検橋梁数	目標	%	50	160	104
			実績	%	50	154	104
		達成率	%	-	100.00	96.25	100.00
		目標	-				
	実績	-					
	達成率	%	-	-	-	-	
備考							

事務事業名	道路ストック点検・修繕事業	事業期間	平成 27 ~ 27 年度	整理番号	05010305
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	伊藤 琢 弥
				連絡先	506

期	目 標	実 績	課 題
第1期	国の交付金内示を受け、橋梁点検車や損傷の判定に専門的な知識が必要となる橋梁について委託業務の発注を行う。	委託による点検業務の発注は完了した。	今年度予定している80橋の直営(職員)による点検計画を策定する必要がある。
第2期	点検計画に基づき、職員で80橋梁の点検、データ整備を順次行っていく。	職員による点検もシフトを組み実施している。国交省主催による点検研修も4名の受入れが可能となり、点検体制が整ってきている。	今後JR跨線橋等が残っていることから、点検費用がかさむ心配がある。また、長大橋の点検について県等に相談をしていきたい。
第3期	引続き年内降雪前に直営点検は終了させる。	80橋の直営点検と74橋の委託発注分が完了した。	橋面に土砂がたまっているとこれらの清掃をしたうえで橋梁点検を実施するため、点検効率が悪くなる。
第4期	来年度に向けて反省点を整理し、効率の良い橋梁点検を目指す。	今年度予定していた全ての橋梁点検が完了した。	ほとんど通行しないような橋梁があったため、管理橋梁として継続して管理していくのか検討が必要である。

事 中 評 価				
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 方 向 性 方 向 性	②	⑤	⑦
職員により点検した橋梁の中に木橋があったが、「道路橋定期点検要領(国土交通省)」には木材の変状種別がないため、職員の経験により健全性の判定を行っている。劣化が進んでいる木橋もあり今後の維持管理を考えると、これらについては道路認定を修正し橋梁台帳からの削除を検討する必		③	⑥	⑨
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)		④	⑧	⑩
新年度は、3橋のJR跨線橋を含む22橋について点検委託を実施。		①		
		皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性		

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A
課題	橋梁は市の管理する道路施設であり、重要な施設である。限られた予算で安全性を確保するために、修繕費を抑えた効率的な補修を行う必要がある。															
記号の定義	A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定	A															
前年度評価シート整理番号	05010305															

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後					
	橋梁は資産価値の高い重要な施設である。施設を長年に利用するためには今以上の劣化進行を防ぐのに有効な事業であるため、課題である補修内容の変更に柔軟に対応し、計画通り事業を進める。	橋梁は資産価値の高い重要な施設である。施設を長年に利用するためには今以上の劣化進行を防ぐのに有効な事業であるため、課題である補修内容の変更に柔軟に対応し、計画通り事業を進める。									
前年度改革・改善策の実施状況	一部実施					前年度細施策評価における今後の方向性					

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	橋梁の健全度を高く保ちながらも少ない費用で補修を行える計画とし、費用対効果を十分に精査する。	橋梁の健全度を高く保ちながらも少ない費用で補修を行える計画とし、費用対効果を十分に精査する。								
今後の方向性	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				

最終評価年月日	平成28年4月4日	最終評価責任者	建設課長	篠原 尚一
---------	-----------	---------	------	-------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	道路維持修繕事業	事業期間	平成 27 ~ 28 年度	整理番号	05010201
担当部署	都市建設部	建設課	維持保	作成担当者名	両角吉雄
				連絡先	505

計	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実
				細施策	01	生活道路整備、維持管理の推進
				事務事業	04	維持修繕事業
画	予算事業名	道路維持修繕事業費			会計コード	001 款 08 項 02 目 02 事業 01
	事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)	舗装道路面が傷んで通行に支障が出ている箇所を補修する。未舗装市道砂利敷きへの材料支給。道路側溝の傷んだ箇所を補修する。風雨により堆積した道路上の土砂を清掃する。幹線市道の維持に特に影響のある大きな法面の草刈り。市が管理する河川について建設重機等の借り上げによる河床の整備。				
	現状と背景 (どうして)	冬期間の凍み上がりや経年により道路構造物が老朽化し通行や水の流れに支障をきたすため修繕が必要。道路上の土砂が道路側溝等へ流れ込み雨水の流れを妨げたり諏訪湖への流入等被害を発生させるため路面の清掃が必要。準用河川約40kmと普通河川約60kmについて台風や集中豪雨などで河川への土砂堆積や洗掘などが発生し越水や堤体の決壊に繋がる原因となる。				
	目的	受益者 (誰のために)	茅野市内の市道道路利用者 および 河川沿線の居住者			
L	対象	対象 (直接働きかける)	茅野市道 約1800km および 準用河川約40kmと普通河川約60km			
	意図 (どんな状態にしたいか)	道路通行車両や通行者の事故防止。降雨時の冠水や浸水防止。市で建設機械重機等を借り上げて河床の整理を行い中小河川の流下能力が損なわれないようにし、地元地区と連携して災害に強い河川環境を維持する。				
	手段・方法 (どうやって)	舗装路面の傷んだ部分の補修（パッチング等）を行う。道路清掃車で幹線道路の清掃を行う。幹線市道の維持に特に影響のある大きな法面の草刈りを行う。区・自治会等が未舗装市道の補修に使用する砂利を支給する。地元区自治会等から情報を得ながら堆積土砂の排除や河床整理を行う。地元区自治会等の一般河川環境整備活動に対して支援を行う。				
N	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		要望補修工事	要望工事件数	件	補修工事発注件数	400
		道路パトロールの実施	パトロール延長	km	道路パトロール自動車の総走行距離	20,000
		道路清掃の実施	清掃延長	m	幹線道路の土砂を除去した距離	150
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
	道路施設物に起因した事故の防止	事故非原因率	%	100 - (事故件数 ÷ 365) * 100	100	
中小河川における河川埋塞による被害防止	河川非埋塞率	%		100		

実施状況	項目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度(予算又は決算額)	平成28年度事業計画(予算)	
			事業費等(a)	円	182,179,475	190,196,678	167,984,413	164,955,196
財源内訳	国庫支出金	円						
	県支出金	円	626,220	643,860	662,256	662,256		
	地方債	円						
	その他特定財源	円	534,681	449,190	440,640	579,960	1,112,000	
	一般財源	円	181,018,574	189,103,628	166,881,517	163,712,980	160,000,000	
	職員数	人	2.70	2.90	2.61	2.61	2.61	
D	活動指標	要望工事件数	目標	400	400	400	400	400
			実績	435	452	453	401	
	パトロール延長	目標	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	
		実績	22,979	22,816	24,946	22,554		
		達成率	114.90	114.08	124.73	112.77		
		目標	150	150	150	150	150	
	清掃延長	目標	150	150	150	146		
		実績	150	150	150	146		
	成果指標	事故非原因率	目標	100	100	100	100	100
			実績	99	99	99	98	100
河川非埋塞率		目標	100	100	100	100	100	
		実績	100	100	100	100	100	
備考	達成率	99.00	99.00	99.00	98.08	100.00		
	達成率	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00		

事務事業名	道路維持修繕事業	事業期間	平成 ~ 年度	整理番号	05010201
担当部署	都市建設部	建設課	維持係	作成担当者名	両角 吉雄
				連絡先	505

期	目標	実績	課題
第1期	凍上による舗装破損箇所の早期修理 水路等破損箇所の水使用前の修理 砂利道の道直しへの支援(区への砂利支給)	しゅん工した補修工事等:54件(H27.6.17現在) 砂利支給:27区(3月配達分)、17区(4月配達分)、3区(5月配達分)	今シーズンは特に凍上による舗装破壊が激しく、アスファルトを剥ぎ取って新たに舗装しなければならぬ箇所が多数あり、工費が2~3倍かかっています。
第2期	区・自治会の要望補修箇所の早期着工 懸案箇所の解決に向けた対応	しゅん工した補修工事等:228件(H27.9.14現在) 懸案箇所の解決:御狩野=廃棄物処理業者の利用頻度が多い道路の舗装補修工事を共同施工1件	集中豪雨や台風等の影響により、土砂・倒木撤去費や砂利道整備費の必要経費が多くなりました。
第3期	区・自治会の要望補修箇所の早期着工 除雪路線の補修工事を冬前に完成	しゅん工した補修工事等:357件(H27.12.3現在) 舗装補修工事は11月で完了	舗装補修工事を優先して取り組んだことにより、予算が不足してきたことから、水路・側溝補修工事の一部を来年度へ先送りしました。
第4期	区・自治会の要望補修箇所の早期着工 パトロール及び通報等による、路面破損箇所の早期補修	しゅん工した補修工事等:380件(H27.3.17現在) 常温合材年間使用量:87t(2,900袋)	道路パトロール車が老朽化により、特に冬期間はエンジンとギヤ部分に故障が多発しました。パトロール員が新人となり慣れないことから、巡回路について毎朝のミーティングが必要となった。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)	① 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

視点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	A
チェック																

課題	記号の定義	前年度総合評価判定	前年度評価シート整理番号
	①道路構造物の老朽化による補修要望が多く寄せられている。 ②広い範囲又は長い区間で傷んでいる場所もあり、維持修繕の補修工事では対応が困難な箇所が増えている。 ③個人林等から道路への倒木及び支障木が多く発生しており、環境整備事業の経費が増加している。 ④河川内の堆積物による浚渫を実施する際、管理道路がない箇所が多く経費が多く掛っている。		

総合評価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	①道路構造物の補修を行うことで通行車両や通行者の事故防止や降雨時の冠水等の防止が図られることから、予算を見ながら緊急度で判断し積極的に補修を行っていく。 ②河川浚渫については、集中豪雨等の出水時においても、閉塞及び越水等を防ぐ有効な手段であることから、実施していくことが必要であり、地元区から情報を得ることが、特に状況把握には重要となる。	①道路構造物の補修を行うことで通行車両や通行者の事故防止や降雨時の冠水等の防止が図られることから、予算を見ながら緊急度で判断し積極的に補修を行った。 ②河川浚渫については、集中豪雨等の出水時における閉塞や越水等を防ぐ有効な手段であることから、地元区から得た情報により状況把握を行い緊急性の高い箇所について早い対応が図れた。								
前年度改革・改善策の実施状況	一部実施					前年度細施策評価における今後の方向性				

改革・改善の方向性	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後					
	成果の方向性 拡 充 現 状 維 持 縮 小 休 廃 止	② ③ ④ ①	⑤ ⑥ ⑧	⑦ ⑨ ⑩	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性		成果の方向性 拡 充 現 状 維 持 縮 小 休 廃 止	① ② ③	④ ⑤ ⑥	⑦ ⑧ ⑨	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

改革・改善策	①規模の大きい補修箇所は補修予算では対応困難なため、建設係と調整を図り区・自治会へ補修時期等について説明する。	②緊急箇所は冬期前を目安に急急等の対応を行う。	③河川浚渫については、地元区からの情報に加え、河川調査の情報も河川の維持管理対策に繋げていく。
	①規模の大きい補修箇所は補修予算では対応困難なため、建設係と調整を図り区・自治会へ補修時期等について説明する。 ②緊急箇所は冬期前を目安に急急等の対応を行う。 ③河川浚渫については、地元区からの情報に加え、河川調査の情報も河川の維持管理対策に繋げていく。		

最終評価年月日	平成28年4月4日	最終評価責任者	建設課長	篠原 尚一
---------	-----------	---------	------	-------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	道路ストック点検・修繕事業	事業期間	平成 26 ~ 30 年度	整理番号	05010302
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	武井 英昭
				連絡先	507

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ		政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実
				細施策	01	生活道路整備、維持管理の推進
				事務事業	02	生活道路整備事業
	予算事業名		舗装修繕事業費	会計コード	001	款
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）		主要幹線市道において、道路および付属物施設の健全性について調査・点検および評価を行ない、数値化することによって施設の劣化状況を把握する。このデータと平成25年に実施した市道路面性状調査の結果に基づき、第1期の舗装修繕計画に基づき修繕工事を実施する。また、次期計画をにらみ、緊急性の高い主要幹線について点検も行っていく。			
	現状と背景 （どうして）		主要市道の総延長が長く、これに付属する施設も広範囲に点在している。また、これら施設に関わる台帳等の帳票も整備されていなかったため、客観的な調査や点検ができていなかったのが現状である。このため、修繕箇所も計画的ではなく劣化・損傷した物から順次修繕していくといった事後対応を実施していた。			
	対象	受益者 （誰のために）	市道利用者すべて			
		対象 （直接働きかける）	1、2級市道並びにその他幹線市道および道路付属物			
	目的	意図 （どんな状態にしたいか）	道路および付属物施設の健全性について調査・点検および評価を行なうことと台帳等の帳票整備を進めることにより、修繕計画を策定し、優先順位を明確にできる。また、修繕計画に基づき修繕工事を実施することにより、長期に渡る財政の平準化を図ることができる。			
	手段・方法 （どうやって）		平成25年度の実施した路面性状調査の結果に基づき、優先順位の高い路線について修繕工法の検討を行ない、修繕工事を実施していく。また、道路付属物については、近接目視による点検を行ない、損傷の度合いを数値化し損傷および劣化状況の把握する。また、台帳等の帳票の作成とGISを利用したデータベースの構築を行なう。			
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		舗装修繕	舗装修繕済延長	km		8
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		舗装修繕	舗装修繕済延長	km		8

項	目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）
実 施 状 況 （ D O ）	事業費等 (a)	円			52,596,000	94,370,400	100,000,000
	財源内訳						
	国庫支出金	円			28,927,800	51,639,127	55,000,000
	県支出金	円					
	地方債	円				38,450,000	40,500,000
	その他特定財源	円					
	一般財源	円			23,668,200	4,281,273	4,500,000
	職員数						
	正規職員	人			0.30	0.25	0.25
	嘱託職員	人					
臨時職員	人						
合計	人			0.30	0.25	0.25	
	対象（者）数						
	延利用（者）数 (b)						
	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-
	受益者負担額	円					
	市民一人当たりのコスト	円	-	-	943.00	1,700.00	1,839.00
O （ ）	活動指標	舗装修繕済延長	目標	実績	達成率		
			km	km	%	8	8
成果指標	舗装修繕済延長	目標	実績	達成率			
		km	km	%	8	8	8
備考							

事務事業名	道路ストック点検・修繕事業	事業期間	平成 26 ~ 30 年度	整理番号	05010302
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	武井 英昭
				連絡先	507

期	目標	実績	課題
第1期	社会資本整備総合交付金を受け早期に発注できるように準備する。	予定していた2か所の施工箇所の発注準備が完了した。	今後施工段階にて、近隣商店等との調整を密にする必要がある。
第2期	近隣商店との調整を図り、関係機関との連携を図ることで、工事の進捗影響しないようにする。また、請負業者へ指導を行う。	今年度の対象路線である横内下町線、白樺湖南線の2路線の工事発注が完了した。	横内は商店等の営業店舗が沿道にあるため、工事前の丁寧な説明が求められる。(工事は夜間施工) 白樺湖は道路の路肩水路が老朽化していることから、舗装前の整備が必要となる。
第3期	昨年12月にかかりの降雪と路面凍結があったことから、今年度は11月中旬に施工を完了させる。	白樺湖南線については、工事が11月に完了した。横内下町線の施工が近隣調整との中で12月工事完了した。また、長峰街道を11月に追加発注し、12月に工事完了した。	路上再生路盤工の配合試験結果から、計画事業費より安価になってきている。このことから、事業費を有効活用するため、グリーンラインの発注および工事を3月までに実施する必要がある。
第4期	グリーンラインの発注および工事完了を3月までに行う。	グリーンラインの発注を1月に実施し、3月までに工事完了した。	市道の主要幹線となるため、市道利用者や沿線市民の理解を得られるソフト面の対応を充実させる必要がある。

事中評価																						
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 長野県内の交通誘導員減少に伴い、店舗等を多く沿線に抱える横内下町線 工事の交通誘導員確保に苦慮している。	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">今後の方向性</td> <td>成果の方向性</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>拡充</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	今後の方向性	成果の方向性	②	⑤	⑦	拡充	③	⑥	⑨	現状維持	④	⑧	⑩	縮小	①			休廃止			
今後の方向性	成果の方向性		②	⑤	⑦																	
	拡充		③	⑥	⑨																	
	現状維持		④	⑧	⑩																	
	縮小	①																				
休廃止																						
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策) 当面の整備路線を選定(第1次整備路線)したが、施工延長がなかなか伸びないことから補助要望を大幅に上げて要求していく必要がある。また、限られた財源の中で効率的に事業を推進するため、修繕工法の見直しや交通規制方法の見直しを図っていく。	<table border="1"> <tr> <td>皆減</td> <td>縮小</td> <td>現状維持</td> <td>拡大</td> </tr> <tr> <td colspan="4">コスト投入の方向性</td> </tr> </table>	皆減	縮小	現状維持	拡大	コスト投入の方向性																
皆減	縮小	現状維持	拡大																			
コスト投入の方向性																						

評価年度	当年度
------	-----

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	A
チェック																
課題	25年度に実施した路面性状調査結果によると1、2級幹線道路の47kmが緊急に修繕を要する道路と判定された。このことを受けて、今年度から交付金事業として修繕事業をスタートしたが、事業費(交付金)の制約もあり思うように整備が進まないのが難点である。															
記号の定義	A:計画どおり事業を進めることが適当 B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定	A															
前年度評価シート整理番号																

総合評価	細施策評価前					細施策評価後					
	幹線道路のみならず、市内道路は全般的な老朽化をいっきに迎えている状況である。その中でも幹線道路整備が交付金措置をいただき整備ができることから、できるだけ利用していくべきと考える。	幹線道路のみならず、市内道路は全般的な老朽化をいっきに迎えている状況である。その中でも幹線道路整備が交付金措置をいただき整備ができることから、できるだけ利用していくべきと考える。									
前年度改革・改善策の実施状況	一部実施					前年度細施策評価における今後の方向性					

改革・改善の方向性(ACTION)	細施策評価前					細施策評価後				
	成果の方向性	拡充		②	⑤	⑦	拡充			
方向性	現状維持		③	⑥	⑨	現状維持			④	
	縮小		④	⑧	⑩	縮小				
休廃止	①					休廃止				
	皆減 縮小 現状維持 拡大 コスト投入の方向性					皆減 縮小 現状維持 拡大 コスト投入の方向性				
改革・改善策	当面の整備路線を選定(第1次整備路線)したが、施工延長がなかなか伸びないことから補助要望を大幅に上げて要求していく必要がある。平成30年度までに8kmの整備を目標としている。					当面の整備路線を選定(第1次整備路線)したが、施工延長がなかなか伸びないことから補助要望を大幅に上げて要求していく必要がある。平成30年度までに8kmの整備を目標としている。				

最終評価年月日	平成28年4月4日	最終評価責任者	建設課長	篠原 尚一
---------	-----------	---------	------	-------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	市道除雪・融雪剤散布事業			事業期間	平成	～	年度	整理番号	05010202				
担当部署	都市建設部	建設課	維持係	作成担当者名	平田和寛			連絡先	505				
計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり							
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実							
				細施策	01	生活道路整備、維持管理の推進							
				事務事業	05	除雪・融雪剤散布事業							
	予算事業名	市道除雪・融雪剤散布事業費			会計コード	001	款	08	項	02	目	02	事業
事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	10cm以上の積雪時には、できるだけ通勤・通学の時間帯に間に合うように除雪重機等で集落と集落を結ぶ指定の幹線市道約200kmの除雪を行う。 降雪後の道路凍結時には、通勤時間帯や路線状況により指定の幹線市道の急坂や曲線部約90kmに融雪剤散布を行う。												
現状と背景 （どうして）	スパイクタイヤの使用禁止や茅野市の地形等から市街地では平常時でも通勤・通学の時間帯に渋滞が発生しており、冬場の降雪や路面凍結時には交通に障害が出る等、通勤や物流に大きな影響が出る。このような道路状況について、除雪重機等の除雪作業や融雪剤散布が必要となる。												
目的 （どんな状態にしたいか）	対象	受益者 （誰のために）	茅野市内の道路利用者										
	対象 （直接働きかける）	市内の集落と集落を結ぶ幹線市道の指定箇所 約200km 市内主要幹線市道の急坂・日陰・曲線部分の指定箇所 約90km											
手段・方法 （どうやって）	幹線市道の指定箇所 約200kmを重機等で除雪する。 玄関口の除雪は利用者や区・自治会等に作業協力をお願いする。 幹線市道の急坂・日陰・曲線部分の指定箇所 約90kmの融雪剤散布を行う。 市で散布を行わない路線は利用者や区・自治会等に作業協力をお願いする。												
N （ ）	活動指標 （評価指標の作成）	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など					最終目標値			
		除雪の実施	除雪延長	km	請負業者の除雪機械の総走行距離					200			
		除雪出動命令による出動	除雪回数	回	監督員から請負先へ、出動要請した回数 夜と朝の両方出動した場合は、2回とした					2			
	融雪剤散布	散布延長	km	融雪剤散布車両の総走行距離					90				
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など					最終目標値			
幹線道路における積雪による通行止めの防止	非通行止め率	%	1 - (通行止め件数 ÷ 365) × 100					100					

実施状況	項目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
			事業費等 (a)	円	125,831,016	234,987,628	157,379,363	99,988,537
財源内訳	国庫支出金	円						
	県支出金	円				162,576		
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
職員数	一般財源	円	125,831,016	234,987,628	157,379,363	99,825,961	107,896,000	
	正規職員	人	0.38	0.26	0.39	0.39	0.39	
	嘱託職員	人						
	臨時職員	人						
状況	合計	人	0.38	0.26	0.39	0.39	0.39	
	対象（者）数	人	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	
状況	延利用（者）数 (b)							
	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
状況	受益者負担額	円						
	市民一人当たりのコスト	円	2,241.00	4,198.00	2,811.00	1,786.00	1,980.00	
D O （ ）	活動指標	除雪延長	目標	km	200	200	200	200
			実績	km	200	200	200	212
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	106.05	-	
	除雪回数	目標	回	3	3	3	2	2
		実績	回	11	16	7	5	
	達成率	%	366.67	533.33	233.33	250.00	-	
散布延長	目標	km	90	90	90	90	90	
	実績	km	86	86	86	88		
達成率	%	95.56	95.56	96.00	97.33	-		
成果指標	非通行止め率	目標	%	100	100	100	100	
		実績	%	100	100	100	100	
達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00		
備考	-	目標	-					
		実績	-					
達成率	%	-	-	-	-	-		

事務事業名	市道除雪・融雪剤散布事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	05010202
担当部署	都市建設部	建設課	維持係	作成担当者名	平田和寛	連絡先	505

期	目 標	実 績	課 題
第1期	リース除雪機械の返却 融雪剤散布自動車等の回収	リース除雪機械の返却:4台 融雪剤散布自動車等の回収:5台	なし
第2期	除雪業者および除雪機械等の保有状況調べ 除雪路線・融雪剤散布路線のブロック割りの検討	保有状況:H26契約者からH27継続を確認 ブロック割:融雪剤散布のエリアを5→6へ増強	なし
第3期	除雪・融雪剤散布の体制整備 除雪業者・融雪剤散布業者との早期契約	体制整備を行い、除雪会議(11/24)を開催 除雪会議までに除雪契約完了 豪雪災害時の連絡体制を整備、緊急手配訓練を実施	業務実施者の保有する除雪機が幾分増えてきており固定除雪費が増加傾向にあるため、除雪機の必要台数を見極めることが課題となります。
第4期	降雪による交通障害の発生防止 豪雪災害時の緊急路線確保	降雪により除雪は5回出動、塩カル散布は路面凍結に備え随時出動	除雪機95台・融雪剤散布車6台により実施しましたが、機械能力、オペレーターの技能、受け持つ延長の違いにより、稼働時間にばらつきがあり、除雪が間に合わない路線がありました。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 休 廃 止 方 向 性
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A
課 題	①業者所有の除雪重機等の老朽化が進み重機の維持に苦勞している業者が増えており、重機を手放す業者や廃業者も出ている。(H28.3廃業1社) ②「除雪機はあるが運転する人がいない」ことが現場で起きている。今後の除雪体制及び融雪剤散布体制には、まずは必要な人材を確保できるかが課題である。															
記 号 の 定 義	A:計画どおり事業を進めることが適当 B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定	A															
前年度評価シート整理番号	05010207															

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	①除雪機械の確保については業者と情報交換し、前年度を上回る機械が確保出来た。 ②除雪・融雪剤散布には熟練した技術が必要であるが、オペレータの変更等によって不具合の発生が心配されることから、巡回で都度指導を行い不具合を減らした。 ③機械運転費・機械管理費については、県単価を準用していく。	①業者と情報交換し、前年度を上回る除雪機械が確保出来た。 ②除雪・融雪剤散布には熟練した技術が必要であるが、オペレータの変更等で不具合の発生が心配されるため、巡回で都度指導を行い不具合を減らした。 ③機械運転費・機械管理費については、引き続きの県単価準用により適正化が図られた。 ④理事者の専決のご判断により3月の降雪まで対応が出来た。								
前年度改革・改善策の実施状況	一部実施									

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	今 後 の 方 向 性	成 果 の 方 向 性	拡 充	②	⑤	⑦	成 果 の 方 向 性	拡 充		
		現 状 維 持	③	⑥	⑨		現 状 維 持			レ
		縮 小	④	⑧	⑩		縮 小			
		休 廃 止	①				休 廃 止			
		皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性			
改 革 ・ 改 善 策	①業者から随時情報を得て除雪路線の調整を行い、現在の除雪等の体制を悪くしないようにする。 ②地元区・自治会の情報から除雪新規参入希望業者について情報を得て体制の調整を図る。					①業者から随時情報を得て除雪路線の調整を行い、現在の除雪等の体制を悪くしないようにする。 ②地元区・自治会の情報から除雪新規参入希望業者について情報を得て体制の調整を図る。				

最終評価年月日	平成28年4月4日	最終評価責任者	建設課長	篠原尚一
---------	-----------	---------	------	------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

#N/A

事務事業名	公共事業残土処理場検討事務	事業期間	平成 27 ~ 27 年度	整理番号	05010311
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	両角敏行
				連絡先	506

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり								
			施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実								
			細施策	01	生活道路整備、維持管理の推進								
			事務事業		-								
	予算事業名				会計コード		款		項		目		事業
	事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)	市内全域において、公共事業発生土を受入れることができ、且つそれを利用して土地の有効利用が図られる場所を調査し、実施に向けて検討する。											
	現状と背景 (どうして)	旧来建設工事発生残土処理については、請負業者による自由処分としてきたが、現在その処分場所がなくなってきていることから、公共事業発注者の責務として、この処理場の確保が必要となってきた。											
	目的 対 象 (誰 の た め に)	受益者	公共事業請負業者、土地所有者										
		対象 (直 接 働 き か け る)	土地所有者										
	的 意 図 (ど ん な 状 態 に し た い か)	発生土を利用することによって、効率的な土地利用が可能になる。											
	手段・方法 (ど う や っ て)	残土処理場候補の検討											
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など					最終目標値			
		残土処理場候補地の選定	候補地選定	箇所	市域内に分散させることから複数箇所が必要					3			
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など					最終目標値			
		公共事業残土処理	残土処理量	m3	10,000m3×3か所					30,000			

項	目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度(予算 又は決算額)	平成28年度 事業計画(予算)	
実 施 状 況 （ D O ）	事業費等(a)	円						
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
	一般財源	円						
	職員数	人		0.10	0.10	0.10	0.10	
	正規職員	人						
	嘱託職員	人						
臨時職員	人							
合計	人		0.10	0.10	0.10	0.10		
対象(者)数								
延利用(者)数(b)								
単位コスト(a)/(b)	円		-	-	-	-		
受益者負担額	円							
市民一人当たりのコスト	円		-	-	-	-	13.00	
活 動 指 標 （ ）	候補地選定	目標	箇所		3	3	3	3
		実績			0	0	0	0
	達成率	%		-	0.00	0.00	0.00	0.00
	-	目標						
		実績						
	達成率	%		-	-	-	-	
	-	目標						
		実績						
達成率	%		-	-	-	-		
成 果 指 標 （ ）	残土処理量	目標	m3		30,000	30,000	30,000	30,000
		実績			0	0	0	0
	達成率	%		-	0.00	0.00	0.00	0.00
	-	目標						
実績								
達成率	%		-	-	-	-		
備考								

事務事業名	公共事業残土処理場検討事務	事業期間	平成 27 ~ 27 年度	整理番号	05010311
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	両角敏行
				連絡先	506

期	目標	実績	課題
第1期	候補となりそうな処理場を選定していきたい。	具体的な場所の選定までは至っていない。	庁内で、プロジェクトチーム等を立ち上げてマンパワーが不足していることから、総括的に考えていく必要がある。
第2期	候補となりそうな処理場を選定していきたい。	候補となりうる土地を選定した。	最終的な土地の利用方法について検討が必要
第3期	降雪前に現況の測量を行い、計画書を作成し、庁内決裁を取りたい。	実施計画時の打合せにより、候補地(横内)については、見合わせ、別箇所を探すこととなる。	一定量の残土が効率的にストックできる候補地の選定
第4期	2級8号線道路改築事業区域内(粟沢・神之原)の残土処理場検討	道路改築に必要な残土(県農道舗装事業)と残土置場を確保した。	公共事業全般で利用できる処理場の選定

事中評価																					
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	<table border="1"> <tr> <td>今</td> <td>成果の方向性</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>後</td> <td>の方向性</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>の</td> <td>方向性</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>方</td> <td>向性</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	今	成果の方向性	②	⑤	⑦	後	の方向性	③	⑥	⑨	の	方向性	④	⑧	⑩	方	向性	①		
今	成果の方向性	②	⑤	⑦																	
後	の方向性	③	⑥	⑨																	
の	方向性	④	⑧	⑩																	
方	向性	①																			
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)	<table border="1"> <tr> <td>皆</td> <td>減</td> <td>縮</td> <td>小</td> <td>現</td> <td>状</td> <td>維</td> <td>持</td> <td>拡</td> <td>大</td> </tr> <tr> <td>コ</td> <td>ス</td> <td>ト</td> <td>投</td> <td>入</td> <td>の</td> <td>方</td> <td>向</td> <td>性</td> <td></td> </tr> </table>	皆	減	縮	小	現	状	維	持	拡	大	コ	ス	ト	投	入	の	方	向	性	
皆	減	縮	小	現	状	維	持	拡	大												
コ	ス	ト	投	入	の	方	向	性													

評価年度	当年度
------	-----

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	A
チェック																
課題	<p>公共事業の規模は縮小傾向にあるものの、依然残土処理場の需要は建設業の中で高い位置にある。今後、建設業協会とタイアップしながら箇所の選定に努める必要がある。</p>															<p>記号の定義</p> <p>A: 計画どおり事業を進めることが適当</p> <p>B: 事業の進め方に改善が必要</p> <p>C: 事業規模・内容・実施主体の見直しが必要</p> <p>D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要</p>
前年度総合評価判定																
前年度評価シート整理番号																

総合評価	細 施 策 評 価 前	細 施 策 評 価 後
行政としての責務の一環として継続して箇所の選定を行う必要がある。	行政としての責務の一環として継続して箇所の選定を行う必要がある。	行政としての責務の一環として継続して箇所の選定を行う必要がある。
前年度改革・改善策の実施状況	検討中	前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性(ACTION)	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	成果の方向性	拡 充	現 状 維 持	縮 小	休 廃 止	成果の方向性	拡 充	現 状 維 持	縮 小	休 廃 止
今までの候補地が上がったところは交通の利便的に思うような場所ではなかったことから、建設業組合側から候補地を提案していただき、調査を市が行うことも検討していきたい。	②	⑤	⑦			②	⑤	⑦		
今までの候補地が上がったところは交通の利便的に思うような場所ではなかったことから、建設業組合等から候補地を提案していただき、調査を市が行うことも検討していきたい。	③	⑥	⑨			③	⑥	⑨		
	④	⑧	⑩			④	⑧	⑩		
	①					①				
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				

最終評価年月日	平成28年4月4日	最終評価責任者	建設課長	篠原尚一
---------	-----------	---------	------	------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	市単河川改修事業（河川現況調査事業）	事業期間	平成 25 ~ 28 年度	整理番号	05010308
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	伊藤 利紗
				連絡先	507

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実
				細施策	02	河川整備、維持管理の推進
				事務事業	01	河川改修事業
	予算事業名	河川現況調査事業費			会計コード	001 款 08 項 03 目 01 事業 02
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	洪水による影響が大きいと思われる箇所の現況調査を行い、現在の河川能力及び現状を把握し、市内にある河川を効率的に改修することにより、水害の発生を予防し、災害の拡大防止を図りたい。				
	現状と背景 （どうして）	市内の河川は、河川災害復旧でかなりの箇所が既に改修されているが、未改修の箇所について、集中豪雨等により水害が発生する恐れがある。河川台帳が未整備であり、市内河川の管理が網羅できていないため、河川改修についての根拠が不明確である。				
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象	受益者 （誰のために）	沿線及び下流域の住民		
		対象 （直接働きかける）	同上			
		沿線及び下流域の住民が、安心して安全に生活するため、準用河川、普通河川及び市街地排水路の護岸や排水路を改修する。				
	手段・方法 （どうやって）	市内にある47河川（準用河川18、普通河川29）を年次計画により調査する。洪水による影響が大きいと思われる箇所の現況調査を行い、現在の河川の現状および流下能力を把握する。				
N （ ）	活動指標 の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		河川調査	河川調査	m	市内の全河川数の3分の1程度	40,000
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		河川調査	河川調査	河川		47

実 施 状 況 （ D O ）	項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
			事業費等 (a)	円	7,381,500	9,817,500	8,856,000	8,748,000
財 源 内 訳	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
職 員 数	一般財源	円	7,381,500	9,817,500	8,856,000	8,748,000	9,000,000	
	正規職員	人	0.30	0.03	0.03	0.25	0.25	
	嘱託職員	人						
	臨時職員	人						
	合	人	0.30	0.03	0.03	0.25	0.25	
対 象 （ ）	対象（者）数	人						
	延利用（者）数 (b)	人						
	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
	受益者負担額	円						
市 民 一 人 当 た り の コ ス ト		円	131.00	175.00	158.00	156.00	194.00	
	河川調査	目標		40,000	4,000	6,950	7,650	
		実績	m		9,338	9,182	7,350	7,650
		達成率	%	-	23.35	229.55	105.76	100.00
活 動 指 標	-	目標						
		実績	-					
		達成率	%	-	-	-	-	
	-	目標						
実績		-						
	達成率	%	-	-	-	-		
成 果 指 標	河川調査	目標		5	11	15	14	
		実績	河川		5	11	14	14
		達成率	%	-	100.00	100.00	93.33	100.00
	-	目標						
実績		-						
	達成率	%	-	-	-	-		
備 考								

事務事業名	市単河川改修事業（河川現況調査事業）	事業期間	平成 25 ～ 28 年度	整理番号	05010308
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	伊藤利紗
				連絡先	507

期	目標	実績	課題
第1期	今年度調査予定の河川及び、記終点を現地調査した後、委託業務の発注準備を行う。	今年度分の河川(14河川)の委託業務発注は完了した。	河川の現地踏査を行う必要がある。
第2期	委託業者と事前に業務内容と現地を確認する。	委託業者による現地調査・測量を行った。	河川の状況により柔軟に業務内容を変更していく必要がある。
第3期	降雪前に現地での調査を終了させる。	現地での調査が終了した。	成果品納品前に打合せ等の連携を密にする。
第4期	工期内納品と修繕必要箇所抽出をしていく。	14河川の調査が終了し、成果品の提出を受けた。	成果品の提出に合わせて、早期に改修すべき箇所の抽出、課内での情報共有が必要。

事中評価																	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今後の方向性																
<table border="1"> <tr> <td>拡充</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	拡充	②	⑤	⑦	現状維持	③	⑥	⑨	縮小	④	⑧	⑩	休廃止	①			皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性
拡充	②	⑤	⑦														
現状維持	③	⑥	⑨														
縮小	④	⑧	⑩														
休廃止	①																
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策） 27年度調査対象を15河川としていたが、1河川分については未調査となりました。未調査河川1河川を含む14河川を28年度の調査対象河川とする。	方向性																

評価年度	当年度
------	-----

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	A
チェック																
課題	ゲリラ豪雨の頻発により河川の増水が繰り返されるため、河川改修が急務である。これに伴う予算措置が課題。															記号の定義
																前年度総合評価判定
																前年度評価シート整理番号 05010307

総合評価	細施策評価前					細施策評価後				
	目標の市内調査全延長の約2分の1について、調査結果に基づき流下能力不足の区間についての改良の必要性や、河床洗掘及び護岸基礎の露出が起きている箇所、また、補修の必要がある箇所の把握ができた。	目標の市内調査全延長の約2分の1について、調査結果に基づき流下能力不足の区間についての改良の必要性や、河床洗掘及び護岸基礎の露出が起きている箇所、また、補修の必要がある箇所の把握ができた。					目標の市内調査全延長の約2分の1について、調査結果に基づき流下能力不足の区間についての改良の必要性や、河床洗掘及び護岸基礎の露出が起きている箇所、また、補修の必要がある箇所の把握ができた。			
前年度改革・改善策の実施状況	一部実施					前年度細施策評価における今後の方向性				

改革・改善の方向性(ACTION)	細施策評価前					細施策評価後				
	成果の方向性	拡充		②	⑤	⑦	拡充			
	現状維持		③	⑥	⑨	現状維持		レ		
	縮小		④	⑧	⑩	縮小				
	休廃止	①				休廃止				
	皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性					皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性				
改革・改善策	自然災害防止事業へ移行した事業もあるが、今後策定される雨水計画との整合を図り、補助事業としての推進を図る。					調査結果を活かし、把握した緊急性の高い箇所について単独事業や自然災害防止事業による早期改修に繋げていく。				

最終評価年月日	平成28年4月4日	最終評価責任者	建設課長	篠原尚一
---------	-----------	---------	------	------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	自然災害防止事業（才野川）	事業期間	平成 25 ~ 31 年度	整理番号	05010307
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	柳 澤 夏 樹
				連絡先	507

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実
				細施策	02	河川整備、維持管理の推進
				事務事業	01	河川改修事業
	予算事業名	自然災害防止事業費（才野川）			会計コード	001 款 08 項 03 目 01 事業 01
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	農地の宅地化に伴い、降雨時における雨水の流出時間が短くなったことに加え、小泉団地内の道路側溝の処理能力不足により越水災害が生じているため、才野川へ放流することによって、この危険を回避する。				
	現状と背景 （どうして）	小泉団地の雨水が道路側溝を越水し、ブロック積み擁壁全面に流出し、才野川季節断面が侵されている。				
	目的	受益者 （誰のために）	近隣住民、才野川沿線農耕作者			
		対象 （直接働きかける）	断面不足の河川			
		意図 （どんな状態にしたいか）	氾濫しにくい河川に改善 小泉団地の水路システムの安定			
	手段・方法 （どうやって）	現在の才野川断面を大きくすることにより、現小泉団地の水路システムを受け入れることが可能になる。				
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		氾濫のしにくい河川	河川改修済み延長	m	改修河川延長	1,010
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		氾濫のしにくい水路（小泉団地）	改修率	%	（改修延長）/（全体延長）	100

項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
事業費等 (a)	円		34,728,750	34,204,680	28,590,000	38,100,000	
財源内訳							
国庫支出金	円						
県支出金	円						
地方債	円			33,000,000	28,590,000	38,100,000	
その他特定財源	円						
一般財源	円		34,728,750	1,204,680			
職員数	人		0.10	0.10	0.25	0.25	
正規職員	人						
嘱託職員	人						
臨時職員	人						
合計	人		0.10	0.10	0.25	0.25	
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)	円	—	—	—	—	—	
受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	円	—	620.00	611.00	511.00	714.00	
活動指標	河川改修済み延長	目標	m	1,010	1,010	1,010	1,010
		実績	m	140	410	670	870
	達成率	%	—	13.86	40.59	66.34	86.14
	—	目標	—	—	—	—	—
成果指標	改修率	目標	%	14	41	66	86
		実績	%	—	14	41	66
	達成率	%	—	100.00	100.00	100.00	100.00
	—	目標	—	—	—	—	—
	実績	—	—	—	—	—	
	達成率	%	—	—	—	—	
備考							

事務事業名	自然災害防止事業(才野川)	事業期間	平成 25 ~ 31 年度	整理番号	05010307
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	柳澤夏樹
				連絡先	507

期	目標	実績	課題
第1期	設計の精査と仮設計画の実施	設計書の作成準備	仮設の仕方によって工費や工期が大きく左右される。そのため、仮設計画を十分に行い工事に臨む必要がある。
第2期	実施設計の積算と地権者への事業説明	今年度の工事業費が多いことから、早期発注を完了することができた。	工事に使用するコンクリート2次製品の工場製作に時間を要する。
第3期	工事着手に伴い、沿線関係者への工事説明会を丁寧を実施し、工事についての理解を求める。年度内に完了できるように工程管理をしていく。	現場説明会を完了させ工事着手することができた。	地下水が様々なところから湧き処理に時間を要している。
第4期	工程の管理と品質管理を正確に行い現場を止めることなく工事を進める。	予定していたよりも早く工事が進んだが水道等の埋設物位置が想定と違う場所からできたため工事に遅れが生じた。	来年度は工事場所に道がないため仮設道路の建設等に時間を要することが想定される。そのため仮設計画を綿密に行う必要がある。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 工事に使用する製品の製作に時間を要するため、工事の工程管理を再度計画する必要がある。	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策) 施工延長200mの河川工事を行う。	② ⑤ ⑦ ③ ⑥ ⑨ ④ ⑧ ⑩ ①
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A
課題	下流側から改修を始め2年が経過した。引き続き改修工事を実施していきたい。3年目の工事箇所は既存道路内に水路施設を設置していくことから、仮設及び通行の確保が重要事項となる。															
記号の定義	A:計画どおり事業を進めることが適当 B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定	A															
前年度評価シート整理番号																

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	3年目の工事区間は、延長も長く既存道路内に構造物を埋設していく工事になる。用水と河川機能の両立を図るため、この事業は計画通りに進める必要がある。						3年目の工事区間は、延長も長く既存道路内に構造物を埋設していく工事になる。用水と河川機能の両立を図るため、この事業は計画通りに進める必要がある。			
前年度改革・改善策の実施状況	一部実施					前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	出工期及び農繁期の工事を避けなくてはならないが、工事着手後スムーズに工事を執行するためにも、水路製品の製造期間に時間を要することから、夏期に発注を行う。						出工期及び農繁期の工事を避けなくてはならないが、工事着手後スムーズに工事を執行するためにも、水路製品の製造期間に時間を要することから、夏期に発注を行う。			
今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止	② ⑤ ⑦ ③ ⑥ ⑨ ④ ⑧ ⑩ ①					成果 拡 充 現 状 維 持 方 向 性 縮 小 休 廃 止				
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				

最終評価年月日	平成28年4月4日	最終評価責任者	建設課長	篠原尚一
---------	-----------	---------	------	------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名		自然災害防止事業（北川）			事業期間	平成 25 ~ 28 年度	整理番号	05010310					
担当部署		都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	伊藤利紗	連絡先	507					
計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり							
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実							
				細施策	02	河川整備、維持管理の推進							
				事務事業	02	自然災害防止事業							
	予算事業名	自然災害防止事業費（北川）			会計コード	001	款	08	項	03	目	01	事業
事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	実際に被害があった北川の区間L=26.1mについて、河川線形変更をしながら、ブロック積み護岸工とコンクリート底張り工による河川改修を行う。												
現状と背景 （どうして）	河川現況調査の結果、流下能力の不足と平面線形の不具合が判明した。また、災害危険箇所位置付けられている箇所は、平成24年7月の豪雨災害で、沿線家屋に床下浸水の被害が発生している。												
目的	対象	受益者 （誰のために）	沿線及び下流域の住民										
	対象	対象 （直接働きかける）	河川現況調査結果流下能力不足河川 氾濫した経過のある河川										
	意図 （どんな状態にしたいか）	災害の再発防止 沿線及び下流域の住民の安全な生活確保											
手段・方法 （どうやって）	流下能力不足解消を解消するために断面確保とスムーズな流れが確保できる線形に変更して改良する。 河川に並行している市道の一部拡幅が可能となり車両のすれ違いの際の待避所として活用できる。												
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値				
		氾濫のしにくい河川	河川改修済み延長	m	改修河川延長				250				
		成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値				
	成果指標	氾濫のしにくい河川	河川改修済み延長	m	改修河川延長				250				

項	目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
実 施 状 況	事業費等 (a)	円				7,462,800	21,000,000	
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円				7,462,800	21,000,000	
	その他特定財源	円						
	一般財源	円						
職員数	正規職員	人				0.20	0.20	
	嘱託職員 臨時職員	人						
合計	人				0.20	0.20		
対象（者）数	延利用（者）数 (b)	人						
	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
受益者負担額	市民一人当たりのコスト	円	-	-	-	133.00	402.00	
D O （ ）	活動指標	河川改修済み延長	目標	m			26	70
			実績	m			26	70
			達成率	%	-	-	100.00	100.00
	-	目標	-					
		実績	-					
		達成率	%	-	-	-	-	-
成果指標	河川改修済み延長	目標	m			26	70	
		実績	m			26	70	
		達成率	%	-	-	100.00	100.00	
-	目標	-						
	実績	-						
	達成率	%	-	-	-	-	-	
備考								

事務事業名	自然災害防止事業（北川）	事業期間	平成 25 ～ 28 年度	整理番号	05010310
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	伊藤利紗
				連絡先	507

期	目標	実績	課題
第1期	改修工事に向け、改修区間の用地に関わる寄付採納の準備。	登記手続きが完了した。	水廻しの仮設で工事費用や工事期間が左右される。
第2期	濁水期発注に向けての設計準備	用地交渉を終え、登記業務を終了させた。工事は濁水期工事のため、設計準備を行った。	道路が隣接していることから、交通の影響を考慮した工法の検討が必要となる。
第3期	年内に工事発注を行う。	年内工事発注を行い、入札会を経て、請負業者が決定した。	着手前に、現地立会が必要となる。
第4期	工期内に、品質を確保した工事が完工できるよう、現場監督を行う。	工事書類等の精査を行い工期内に竣工した。	下流の護岸崩落箇所の改修計画を立てる。

事中評価																					
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	<table border="1"> <tr> <td>今</td> <td>成果の方向性</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>後</td> <td>の方向性</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>の方向性</td> <td>縮小</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>の方向性</td> <td>休廃止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	今	成果の方向性	②	⑤	⑦	後	の方向性	③	⑥	⑨	の方向性	縮小	④	⑧	⑩	の方向性	休廃止	①		
今	成果の方向性	②	⑤	⑦																	
後	の方向性	③	⑥	⑨																	
の方向性	縮小	④	⑧	⑩																	
の方向性	休廃止	①																			
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策） 27年度事業の工事はここで終了となるが、同河川内において護岸崩落箇所があることから、引き続きこの河川の別箇所でも28年度から実施していきたい。	皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性																				

評価年度	当年度
------	-----

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	A
チェック					4					4					4	

課題		記号の定義	A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要
		前年度総合評価判定	
		前年度評価シート整理番号	05010307

総合評価	細施策評価前					細施策評価後				
							現況調査により判明した不具合箇所の1箇所について、早い時期に対応することができ家屋の浸水予防が図られた。			
前年度改革・改善策の実施状況						前年度細施策評価における今後の方向性				

改革・改善の方向性	細施策評価前					細施策評価後				
	成果の方向性	②	⑤	⑦						
現状維持	③	⑥	⑨							
縮小	④	⑧	⑩							
休廃止	①									
皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性						皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性				
改革・改善策						現況調査の結果により下流に流下能力不足区間があることから、災害の発生を未然に防ぐために引き続き改修を進めていく。				

最終評価年月日	平成28年4月4日	最終評価責任者	建設課長	篠原尚一
---------	-----------	---------	------	------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	中大塩幹線道路改良事業	事業期間	平成 26 ~ 30 年度	整理番号	05010303
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	伊藤利紗
				連絡先	507

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実
				細施策	03	安全、快適な道路環境整備の推進
				事務事業	02	沿道の設置、カラー舗装事業
	予算事業名	幹線道路整備事業費（中大塩）			会計コード	001 款 08 項 02 目 03 事業 05
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	歩道の波打ち解消と幅員の確保をするために、車道の嵩上げによるセミフラット式歩道の整備を行い、歩行者の安全確保を図ると同時に路面状況の悪い車道を整備する。				
	現状と背景 （どうして）	現在3ブロック476号線歩道は、マウンドアップ歩道が住宅への乗り入れの影響で波打っていることと、電柱が歩道内に建立されていることから、歩行者の安全な通行が阻害されている。				
	目的 的 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	受益者 （誰のために）	3ブロック476号線利用者及び沿線住民			
		対象 （直接働きかける）	沿線の関係者（土地所有者、住民等）			
		意図	歩行者の安全確保、交通環境の改善			
	手段・方法 （どうやって）	現在幹線道路歩道内にある37本の電柱について、昨年度承諾が得られた電柱移転先への移転を行う。電柱移転及び水道本管の布設替え完了後、車道のかさ上げ及び歩道形態の変更を伴う改良工事を行う。住宅団地であることと、バス路線であるため地元区との調整も綿密に行いながら実施する。				
N （ ）	活動指標 の 作 成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		道路改良	改良延長	m		1,750
		電柱移転	移転本数	本		37
	成果 指 標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		道路改良	整備率	%	(整備済延長)/(計画整備延長)	100
		電柱移転	移転率	%	(移転本数)/(計画移転本数)	100

項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
事業費等 (a)	円			14,688,000	91,556,300	80,000,000	
財源内訳							
国庫支出金	円			8,078,400	50,355,000	44,000,000	
県支出金	円						
地方債	円				37,000,000	32,400,000	
その他特定財源	円						
一般財源	円			6,609,600	4,201,300	3,600,000	
職員数	人			0.03	0.25	0.25	
正規職員	人						
嘱託職員	人						
臨時職員	人						
合計	人			0.03	0.25	0.25	
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	円	-	-	262.00	1,636.00	1,463.00	
D O （ ）	活動指標	改良延長	目標	m		200	640
			実績	m		250	640
		達成率	%	-	-	125.00	100.00
	移転本数	目標	本		37	37	
		実績	本		0	37	
		達成率	%	-	-	0.00	100.00
成果指標	整備率	目標	%	100	100	100	
		実績	%		0	125	100
	達成率	%	-	-	0.00	125.00	100.00
移転率	目標	%		100	100		
	実績	%		0	100		
	達成率	%	-	-	0.00	100.00	
備考							

事務事業名	中大塩幹線道路改良事業	事業期間	平成 26 ~ 30 年度	整理番号	05010303
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	作成担当者名	伊藤利紗
				連絡先	507

期	目標	実績	課題
第1期	歩道内の移転対象電柱について、電気通信事業者による新設電柱の設置工事工程の詳細な計画及び沿線地権者へ工事の周知。電柱の新設。	工事の着手に先立って必要となる電柱移転および電線の移設工事が着手された。	工事発注に伴い、埋設管等の協議が必要となる。
第2期	工事発注を行い、着手前に関係機関及び住民説明会を実施していく。	電柱、電線の移設工事に加え、水道課による配水管の布設替工事も行われた。工事発注も完了した。	中大塩団地の幹線道路のため、工事中の交通規制について細かな対応が求められる。
第3期	舗装工事が工事の最終になることから、11月中の舗装を目指したい。電柱、電線の移設工事についても11月中に完了したい。	11月中に舗装を完了させた。電柱移設は年内中に完了した。	竣工書類に不備等が無いよう精査する。
第4期	1月中に精算業務を行う。	精算業務及び竣工検査を行った。本工事については、L=250mの改良実施ができた。	次年度に向けて計画を立てる。

事中評価																										
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	<table border="1"> <tr> <td>今</td> <td>成果の方向性</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>後</td> <td>現状維持</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>の</td> <td>縮小</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>方</td> <td>休廃止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>向</td> <td></td> <td colspan="3">皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性</td> </tr> </table>	今	成果の方向性	②	⑤	⑦	後	現状維持	③	⑥	⑨	の	縮小	④	⑧	⑩	方	休廃止	①			向		皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性		
今	成果の方向性	②	⑤	⑦																						
後	現状維持	③	⑥	⑨																						
の	縮小	④	⑧	⑩																						
方	休廃止	①																								
向		皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性																								
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）																										
総事業延長L=1750mのうち約1割であるL=250mの改良が進んだが、残り3年間での完工を目指したい。H28年度は施工延長L=450mをめざしたい。																										

評価年度	当年度
------	-----

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	A
チェック																

課題	道路改良を行うに伴い、歩道に設置してある電柱等の移設が、事業前に必要。	記号の定義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要
前年度総合評価判定	未評価	
前年度評価シート整理番号		

総合評価	細施策評価前					細施策評価後				
	道路改良に先立ち、事業効果を確保するために歩道内にある電柱移転が必須事項であったが、地元区の協力もありすべての移転先対象者から承諾をいただいた。	道路改良に先立ち、事業効果を確保するために歩道内にある電柱移転が必須事項であったが、地元区の協力もありすべての移転先対象者から承諾をいただいた。								
前年度改革・改善策の実施状況	一部実施					前年度細施策評価における今後の方向性				

改革・改善の方向性（ACTION）	細施策評価前					細施策評価後				
	27年度から、電柱移転事業と並行する形で改良工事を実施していく。併せて水道本管の布設替工事も先行実施する。平成30年度工事完了を目標とする。	27年度から電柱移転事業と並行する形で、改良工事と水道本管の布設替先行工事実施を図った。交付金の交付率も低いのが、平成30年度工事完了を目標として積極的に取り組んでいく。								
今	成果の方向性	②	⑤	⑦		成果の方向性	③	⑥	⑨	
後	現状維持	③	⑧	⑩		現状維持	④	⑪		
の	縮小	④				縮小				
方	休廃止	①				休廃止				
向		皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性					皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性			

最終評価年月日	平成28年4月4日	最終評価責任者	建設課長	篠原尚一
---------	-----------	---------	------	------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	交通安全対策事業			事業期間	平成	～	年度	整理番号	05010401					
担当部署	都市建設部	建設課	交通安全係	作成担当者名	寺澤 寛行			連絡先	512					
計	市民プランにおける位置づけ	有	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり									
			施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実									
			細施策	04	交通安全対策の推進									
			事務事業	01	交通安全啓発活動事業									
画	予算事業名				会計コード	001	款	08	項	01	目	02	事業	04
	事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)	警察、茅野交通安全協会茅野支部、長野県交通安全教育支援センターなどと連携し、交通安全教室での発育段階に応じた実践・体験型の交通安全指導による子どもの交通事故防止、高齢者宅訪問活動、高齢者対象の交通安全教室の開催など交通安全啓発活動を行い高齢者の交通事故防止を図る。また、茅野どんぱん、縄文の里マラソンなどの市民や観光客などが多数参集する催事の安全対策として警察、茅野交通安全協会茅野支部と連携し、交通整理、交通規制看板、バリアードの設置を行い参集者の事故防止を図る。												
	現状と背景 (どうして)	子ども（H25 23件、H26 17件 -6）、高齢者（H25 75件 H26 70件 -5）の交通事故の絶無を期す必要があるが、依然として後を絶たない現状である。大規模な交通規制を伴う催事には関係機関と連携し交通事故防止と円滑な交通の流れの確保を図っていかなければならない。												
	目的	対象	道路利用する子ども、高齢者及び催事に参集する参加者											
L	対象	受益者 (誰のために)	道路利用する子ども、高齢者及び催事に参集する参加者											
		対象 (直接働きかける)	道路利用する子ども、高齢者及び催事会場付近の道路利用者											
		意図 (どんな状態にしたいか)	子どもと高齢者の交通事故の減少。催事等における交通事故の絶無と円滑な交通の流れ											
		手段・方法 (どうやって)	(1)長野県交通安全教育支援センターなどと連携し、発育段階に応じた実践・体験型の交通安全指導による交通安全教室の実施する。 (2)高齢者交通安全モデル地区（神之原区）を中心に警察、茅野交通安全協会茅野支部と協力し高齢者宅を訪問し、夜光反射材などを配付し、外出時における注意啓発活動を実施する。 (3)単位高齢者クラブの総会時に警察、茅野交通安全協会茅野支部、長野県交通安全教育支援センターなどと連携し交通安全教室を開催する。 (4)交通規制計画の参画 交通規制看板 バリアード 規制標識の設置と円滑な交通整理											
N	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値					
		子どもの交通安全意識の高揚	交通安全教室	回	市職員の派遣申請に基づき、内容、人員等を勘案して実施しており、一概に目標設定できない									
		高齢者の交通事故意識の高揚	高齢者宅訪問件数	軒	安全協会が訪問地区を決定しているため、一概に目標設定できない									
		より安全な交通規制計画	安全な交通規制計画											
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値					
	子どもの人身交通事故の減少	子どもの人身交通事故件数	件	前年件数の5%減少				16						
高齢者の人身交通事故の減少	高齢者の人身交通事故件数	件	前年件数の5%減少				89							

項	目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度(予算又は決算額)	平成28年度事業計画(予算)		
実	事業費等(a)	円	5,446,339	6,754,488	5,134,669	4,901,553	4,894,000		
	国庫支出金	円							
	県支出金	円							
	地方債	円							
	その他特定財源	円							
	一般財源	円	5,446,339	6,754,488	5,134,669	4,901,553	4,894,000		
	施	正規職員	人	1.60	1.60	1.60	0.80	0.80	
		嘱託職員	人				0.80	0.80	
		臨時職員	人						
		合計	人	1.60	1.60	1.60	1.60	1.60	
状	対象(者)数		56,030	55,515	55,617	55,617	55,705		
	延利用(者)数(b)		56,030	55,515	55,617	55,617	55,705		
	単位コスト(a)/(b)	円	97	122	92	88	88		
	受益者負担額	円							
	単位受益者負担額(h)/(f)=(i)	円							
	市民一人当たりのコスト	円	97.00	121.00	92.00	88.00	87.00		
	D	交通安全教室	目標	回				60	60
			実績	回	57	54	65	64	60
		高齢者宅訪問件数	目標	軒				150	100
			実績	軒	309	195	230	150	100
安全な交通規制計画		目標	—						
		実績	—						
O	子どもの人身交通事故件数	目標	件	32	30	28	29	12	
		実績	件	18	23	17	13	12	
	達成率	%	56.25	76.67	60.71	44.83	100.00		
	高齢者の人身交通事故件数	目標	件	78	75	70	58	89	
		実績	件	89	112	81	94	89	
	達成率	%	114.10	149.33	115.71	162.07	100.00		
備考									

事務事業名	交通安全対策事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	05010401
担当部署	都市建設部	建設課	交通安全係	作成担当者名	寺澤 寛行	連絡先	512

期	目標	実績	課題
第1期	小学校、保育園、幼稚園の交通安全教室の実施 春の交通安全運動期間中に高齢者宅訪問を実施し、交通安全に対する意識を向上させる	小学校9校、保育園・幼稚園17園、PTA2区に対し安全教室を実施。高齢者交通安全モデル地区を玉川神ノ原区に指定して、春の交通安全運動で、高齢者宅を訪問し交通安全を呼びかけた。	高齢者への交通安全意識の徹底。シートベルト着用の徹底。小学生、保育園児と保護者への交通ルールの徹底。保護者のチャイルドシート装着意識の向上。
第2期	夏の交通安全やまびこ運動に合せ交通安全意識の向上を図る。あらゆる機会をとらえて高齢者、子供、運転手に交通安全を呼びかける。高齢者クラブの総会で交通安全教室開催	小学校1校、保育園1園、PTA3区、高齢者クラブ1、身体障害者団体1に対し安全教室を実施。高齢者交通安全モデル地区神ノ原区にて、秋の交通安全運動で、高齢者宅を訪問した。	児童の歩行訓練、自転車教室による交通ルールの徹底。シートベルト、チャイルドシート装着の徹底。
第3期	交通安全メッセージカード作成配付により家庭における交通安全意識の向上を図る。年末の交通安全運動に、飲酒運転の根絶、シートベルト、チャイルドシート装着を呼び掛ける。	交通安全メッセージカード(小学2年484名に依頼)を配付し家庭における交通安全意識の向上を図った。小学校5校に対し安全教室を実施。神ノ原区を対象に「出迎え型高齢者交通安全教室」を実施	飲酒運転の根絶。シートベルト全席着用、チャイルドシート装着の徹底。 交通死亡事故(4件)が高齢者に集中。高齢者の交通安全意識の徹底。
第4期	年長児対象の交通安全教室を開催し、交通ルールの徹底を図る。(小学校入学に向けて)次年度の小学校・保育園の交通安全教室の受付準備。	保育園・幼稚園19園で新入学児童を対象とした交通安全教室を開催し、交通ルールの徹底を図った。	飲酒運転の根絶。シートベルト全席着用、チャイルドシート装着の徹底。 歩行者交通死亡事故(2件)、高齢者に事故集中。高齢者の交通安全意識の徹底。

事中評価																									
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 ・高齢者の交通事故防止対策。 ・飲酒運転根絶の徹底。 ・シートベルトパーフェクト作戦実施市町村に指定される。(月1回調査取り締まり) 新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策) ・高齢者交通安全教室開催による交通安全意識の高揚。 ・小学生に交通ルールを理解させるための交通安全教室の実施と、自転車教室の指導方法の確立。	<table border="1"> <tr> <td>今</td> <td>成果</td> <td>拡充</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>後</td> <td>の</td> <td>現状維持</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>の</td> <td>方向</td> <td>縮小</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>方向</td> <td>性</td> <td>休廃止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性</p>	今	成果	拡充	②	⑤	⑦	後	の	現状維持	③	⑥	⑨	の	方向	縮小	④	⑧	⑩	方向	性	休廃止	①		
今	成果	拡充	②	⑤	⑦																				
後	の	現状維持	③	⑥	⑨																				
の	方向	縮小	④	⑧	⑩																				
方向	性	休廃止	①																						

評価年度	当年度
------	-----

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	A
課題	(1) 子ども、高齢者の交通弱者の保護 (2) 安全かつ効果的な交通対策の確立															
記号の定義	A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定	A															
前年度評価シート整理番号																

総合評価	細施策評価前					細施策評価後				
		(1) 交通弱者を巻き込む事故は依然として増加傾向にある。継続的な遂行が必要である。 (2) 催事での交通渋滞、交通事故防止のための必要である。					(1) 交通弱者を巻き込む事故は依然として増加傾向にある。継続的な遂行が必要である。 (2) 催事での交通渋滞、交通事故防止のための必要である。			
前年度改革・改善策の実施状況	一部実施					前年度細施策評価における今後の方向性				

改革・改善の方向性(ACTION)	細施策評価前					細施策評価後				
	今	成果	拡充	②	⑤	⑦	成果	拡充		
後	の	現状維持	③	⑥	⑨	の	現状維持			レ
方向	性	縮小	④	⑧	⑩	方向	性	縮小		
性	性	休廃止	①			性	性	休廃止		
	皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性					皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性				
改革・改善策	(1) 関係機関との連携を密にし、継続的な事業実施を行う。 (2) 関係機関との事前打合せの徹底と規制方法の見直し。					(1) 関係機関との連携を密にし、継続的な事業実施を行う。 (2) 関係機関との事前打合せの徹底と規制方法の見直し。				

最終評価年月日	平成28年4月4日	最終評価責任者	建設課長	篠原 尚一
---------	-----------	---------	------	-------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	交通安全施設等整備事業			事業期間	平成	～	年度	整理番号	05010408			
担当部署	都市建設部	建設課	交通安全係	作成担当者名	寺澤 寛行			連絡先	512			
計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり						
			施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実							
			細施策	04	交通安全対策の推進							
			事務事業	03	安全で快適な交通環境整備事業							
	予算事業名			会計コード	001	款	08	項	01	目	02	事業
事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	交通死亡事故や発生件数が減少傾向にあるとはいえ、いつ事故に遭遇してもおかしくない時代を迎えており、市民に身近な問題でもあることから、交通事故を防止するための一方策として、適切な交通安全施設を設置することによって、交通事故のない安心・安全な道路環境づくりを目指す。											
現状と背景 （どうして）	道路交通網が高速化・広域化・過密化・連続化（24時間化）し、様々な要因により、交通事故が後を絶たない。【人身事故発生状況】H23 299件（前年比+14件）H24 271件（前年比-28件）H25 226件（前年比-45件） H26 252件（前年比+26）											
目的	受益者 （誰のために）	道路利用者										
	対象 （直接働きかける）	交通安全施設										
的	意図 （どんな状態にしたいか）	より安全な道路環境をつくる。										
手段・方法 （どうやって）	交通事故発生状況の分析、道路パトロール、住民要望などにより、交通安全施設の必要性を判断して適時適切な交通安全施設の整備を行う。											
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値			
		ガードレール、防護柵	ガードレール等設置距離	m	必要性に応じて設置するものであるため、目標設定になじまない。							
		区画線等の路面標示	区画線等設置延べ距離	m	同上							
	カーブミラー	カーブミラー設置箇所	箇所	同上								
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値			
人身交通事故の減少	人身交通事故非発生率	%	100 - (件数 ÷ 8,760h) × 100				100					

項	目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）
実 施 状 況 （ D O ）	事業費等 (a)	円	22,431,878	21,243,201	18,447,090	17,987,830	17,990,000
	財源内訳						
	国庫支出金	円		11,798,000	9,941,000	10,750,000	
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	22,431,878	9,445,201	8,506,090	7,237,830	17,990,000
	職員数	人	0.75	0.75	0.75	0.40	0.40
	正規職員	人				0.40	0.40
	嘱託職員	人					
臨時職員	人						
合計	人	0.75	0.75	0.75	0.80	0.80	
対象（者）数			56,030	55,515	55,617	55,705	55,705
延利用（者）数 (b)			56,030	55,515	55,617	55,705	55,705
単位コスト (a)/(b)	円		400	383	332	323	396
受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	円		400.00	379.00	330.00	321.00	394.00
活動指標	ガードレール等設置距離	目標	m				72
		実績	m	158	154	126	158
	達成率	%	—	—	—	—	
	区画線等設置延べ距離	目標	m				8,000
		実績	m	13,362	14,872	17,734	7,625
	達成率	%	—	—	—	—	
カーブミラー設置箇所	目標	箇所				45	
	実績	箇所	28	23	41	33	
達成率	%	—	—	—	—		
成果指標	人身交通事故非発生率	目標	%	100	100	100	100
		実績	%	97	97	100	100
	達成率	%	97.00	97.00	99.98	99.97	
—	目標	—					
	実績	—					
達成率	%	—	—	—	—		
備考	・対象（者）数は茅野市の人口とした。						

事務事業名	交通安全施設等整備事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	05010408
担当部署	都市建設部	建設課	交通安全係	作成担当者名	寺澤 寛行	連絡先	512

期	目 標	実 績	課 題
第1期	ガードレール、カーブミラー設置箇所、区画線引き直し箇所等調査及び発注	道路反射鏡9基、ガードレール7ヶ所、注意喚起看板3ヶ所、他、区画線の引き直し箇所の調査及び書き換えを発注した	ガードレール、カーブミラーの老朽化による交換箇所の把握
第2期	ガードレール、カーブミラーの老朽化による交換箇所の把握 グリーンベルト設置準備	道路反射鏡13基、ガードレール7ヶ所、転落防止柵3ヶ所、標識・注意喚起看板等5ヶ所の設置、区画線の引き直しを実施。	昭和年代(50～64年750本)設置のカーブミラー、アドバイスミラーの老朽・経年劣化による更新箇所の把握
第3期	グリーンベルト(金沢小通学路)の塗り直し アドバイスミラーの老朽・経年劣化による更新箇所の把握と更新	道路反射鏡9基、ガードレール1ヶ所、転落防止柵3ヶ所、標識・注意喚起看板等1ヶ所の設置、区画線・グリーンベルト(金沢小通学路)の引き直しを実施。	グリーンベルトの摩耗が激しく、今後、事業費を圧迫する可能性がある。設置箇所を慎重に選択していく。 当て逃げによる交通安全施設の損壊がある。
第4期	御柱街道を中心にアドバイスミラーの老朽・経年劣化による更新箇所の把握と更新	道路反射鏡2基、ガードレール2ヶ所注意喚起看板1ヶ所の設置、区画線・グリーンベルト(下古田)の引き直しを実施。	当て逃げによる交通安全施設の損壊があり、予算を圧迫している。

事 中 評 価													
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 果 拡 充 後 の 現 状 維 持 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止 性												
昭和年代(50～64年750本)設置のカーブミラー、アドバイスミラーの老朽・経年劣化による更新を年次計画により実施が急務となっている。市内全域の区画線等の引き直し箇所調査と年次計画による引き直し。 当て逃げによる交通安全施設の損壊があり、予算を圧迫している。													
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)													
区画線の引き直し、カーブミラー等老朽、経年劣化による更新。 御柱街道のカーブミラー老朽化による建て直し。													
<table border="1"> <tr> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		②	⑤	⑦	③	⑥	⑨	④	⑧	⑩	①		
②	⑤	⑦											
③	⑥	⑨											
④	⑧	⑩											
①													
皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性													

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A

課題	多種、多様な要望への費用対効果を含めた対応。	記号の定義 A:計画どおり事業を進めることが適当 B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要
前年度総合評価判定	A	
前年度評価シート整理番号		

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	交通安全をハード面からサポートする事業であり、直接的な効果が期待できる。	交通安全をハード面からサポートする事業であり、直接的な効果が期待できる。					交通安全をハード面からサポートする事業であり、直接的な効果が期待できる。			
前年度改革・改善策の実施状況	一部実施					前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	今 後 の 方 向 性	成 果 拡 充		②	⑤	⑦	成 果 拡 充			
方 向 性	現 状 維 持		③	⑥	⑨	現 状 維 持			レ	
方 向 性	縮 小		④	⑧	⑩	縮 小				
方 向 性	休 廃 止	①				休 廃 止				
方 向 性	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				
改 革 ・ 改 善 策	要望によっては整備条件が合わないケースがあるが、代替案などによる交通事故抑制を行う。					要望によっては整備条件が合わないケースがあるが、代替案などによる交通事故抑制を行う。				

最終評価年月日	平成28年4月4日	最終評価責任者	建設課長	篠原 尚一
---------	-----------	---------	------	-------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	茅野駅前自転車駐輪場管理事業	事業期間	平成 27 ~ 28 年度	整理番号	05010411
担当部署	都市建設部	建設課	交通安全係	作成担当者名	寺澤 寛行
				連絡先	512

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり							
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実							
				細施策	04	交通安全対策の推進							
				事務事業	03	安全で快適な交通環境整備事業							
	予算事業名			会計コード	001	款	08	項	01	目	02	事業	05
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	茅野駅前にある東口駐輪場、西口駐輪場の2箇所の駐輪場の、朝夕の通勤時間帯における整理整頓、場内清掃、盗難防止、放置自転車の片付け等の管理を行う。											
	現状と背景 （どうして）	駐輪場の自転車が無造作・無秩序に置かれたり、ゴミの投げ捨てなども時折見られ、茅野市の玄関口としての駅前の秩序維持を図る必要がある。											
	目的	受益者 （誰のために）	茅野市民										
		対象 （直接働きかける）	茅野駅前自転車駐輪場										
		意図 （どんな状態にしたいか）	秩序正しい整然とした環境										
	手段・方法 （どうやって）	（社）茅野広域シルバー人材センターへの委託事業として、同センター職員2名で、平日の午前7時～10時、午後3時～6時の間、駐輪場内の自転車・バイク等の整理整頓、場内清掃、盗難防止、放置自転車の片付け等の管理を行う。											
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値				
		放置自転車の撤去	撤去台数	台	撤去台数の多さは目標値設定にはなじまない。								
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値				
		整然とした茅野駅前駐輪場	数字的表現が困難										

項	目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
実 施 状 況 （ D O ）	事業費等 (a)	円	2,282,517	2,254,789	1,722,063	1,705,257	1,873,000	
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
	一般財源	円	2,282,517	2,254,789	1,722,063	1,705,257	1,873,000	
	職員数	人	0.15	0.15	0.15	0.15	0.10	
	正規職員	人					0.10	
	嘱託職員	人						
臨時職員	人							
合計	人	0.15	0.15	0.15	0.15	0.20		
対象（者）数			879	879	879	879	879	
延利用（者）数 (b)			879	879	879	879	879	
単位コスト (a)/(b)	円		2,597	2,565	1,959	1,940	3,287	
受益者負担額	円							
市民一人当たりのコスト	円		41.00	40.00	31.00	30.00	52.00	
活動指標	撤去台数	目標	台					29
		実績	台	22	125	46	29	29
		達成率	%	-	-	-	-	100.00
	-	目標	-					
		実績	-					
		達成率	%	-	-	-	-	-
	-	目標	-					
		実績	-					
		達成率	%	-	-	-	-	-
	成果指標	数字的表現が困難	目標	-				
			実績	-				
		達成率	%	-	-	-	-	
-		目標	-					
実績	-							
達成率	%	-	-	-	-	-		

・対象（者）数は、収容能力 東口578台、ミニバイク20台、西口239台とした。

事務事業名	茅野駅前自転車駐輪場管理事業	事業期間	平成	~	年度	整理番号	05010411
担当部署	都市建設部	建設課	交通安全係	作成担当者名	寺澤 寛行	連絡先	512

期	目標	実績	課題
第1期	放置自転車の把握と撤去。	長期放置自転車の把握と盗難車確認。 卒業生の所有自転車のゴールデンウィークでの帰郷時の撤去を依頼。	放置自転車の所有者確認。
第2期	放置自転車の把握と撤去。	長期放置自転車の把握、盗難車確認実施。 卒業生の自転車の夏休みでの帰郷時の撤去を依頼。 8月末で放置自転車確定。 9月末で放置自転車撤去。	放置自転車の所有者への電話連絡。
第3期	放置自転車の撤去、所有者への移送の通知。	長期放置自転車の把握と所有者への撤去要請実施。 東口駐輪場23台、西口駐輪場6台、計29台撤去。	放置自転車の所有者への撤去要請電話連絡。 防犯登録がなく、連絡不能な自転車がが多く、要請方法がない。
第4期	降雪時の駐輪場の除雪。 高校卒業式以降の放置自転車への警告書取り付け。	駐輪場除雪5回実施。 放置自転車への警告書取り付け。	乗り入れ禁止区間の歩道から駐輪場まで、乗ったまま入場する利用者がいる。

事中評価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今後の方向性 ② ⑤ ⑦ ③ ⑥ ⑨ ④ ⑧ ⑩ ① 皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性
所有者不明の自転車が 所有者が判明しても再三の撤去要請に応じない所有者が 乗り入れ禁止区間の歩道から駐輪場まで、乗ったまま入場する利用者がいる。	
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	
休日や学校の長期休暇（正月・春休み）のシルバー職員不在時の除雪の対応について、シルバー人材センターと協議。休日出勤・超勤対応として次年度より要請が可能に。	

評価年度	当年度
------	-----

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	A
チェック																

課題	放置自転車への対策推進と利用者しやすい環境の整備	記号の定義 A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要
前年度総合評価判定		A
前年度評価シート整理番号		

総合評価	細施策評価前	細施策評価後
駐輪場での放置、盗難抑制に必要。	駐輪場での放置、盗難抑制に必要。	駐輪場での放置、盗難抑制に必要。
前年度改革・改善策の実施状況	一部実施	前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性(ACTION)	細施策評価前					細施策評価後				
	成果の方向性	拡充	現状維持	縮小	休廃止	成果の方向性	拡充	現状維持	縮小	休廃止
状況に応じた柔軟な対応。	②	⑤	⑦							
	③	⑥	⑨					⑨		
	④	⑧	⑩							
	①									
	皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性					皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性				

最終評価年月日	平成28年4月4日	最終評価責任者	建設課長	篠原 尚一
---------	-----------	---------	------	-------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名		県道弘沢茅野線・宮川地区の整備			事業期間	平成 24 ~ 32 年度	整理番号	05020101						
担当部署		都市建設部		建設関連・パイパス対策室	建設関連対策係	作成担当者名	黒澤俊彦	連絡先	522					
計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり								
			施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実									
			細施策	05	国・県道の整備促進									
			事務事業	01	県道弘沢茅野線・宮川茅野の整備事業									
	予算事業名				会計コード	001	款	08	項	02	目	04	事業	01
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	国道20号坂室バイパスの開通により急がれる事業です。県道を含めた区画整理も予定されています。												
	現状と背景 （どうして）	国道20号坂室バイパスの建設により、交差点の位置が変わり市街地への幹線道路として、都市環境の形成を図るため県道弘沢茅野線の整備が必要である。												
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象	受益者 （誰のために）	道路利用者、沿線住民										
		対象 （直接働きかける）	長野県諏訪建設事務所、行政区及び関係地権者											
	手段・方法 （どうやって）	県道弘沢茅野線の内、上川橋から旧国道20号方面（区画整理事業界）までの310m区間の道路築造を行う。												
N （ ）	活動指標 の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値					
		用地・補償交渉の立会	用地・補償交渉人数	人	建設事務所の要請による									
		道路築造	築造延長	m					310					
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値					
		用地・補償交渉契約件数	契約件	件	契約件数÷地権者数				100					
		事業計画	整備率	%	（当年度整備計画） / （事業全体整備計画）				100					

項	目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）
実 施 状 況 （ D O ）	事業費等 (a)	円					
	財源内訳						
	国庫支出金	円					
	県支地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円					
	職員数	人			0.05	0.20	0.20
	正規職員	人					
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人					
合計	人			0.05	0.20	0.20	
	対象（者）数						
	延利用（者）数 (b)						
	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-
	受益者負担額	円					
	市民一人当たりのコスト	円	-	-	-	-	27.00
活動指標	用地・補償交渉人数	目標	人				
		実績					
	築造延長	目標	m				
		実績					
	-	達成率	%	-	-	-	-
		目標	-				
-	実績	-					
	達成率	%	-	-	-	-	
成果指標	契約件	目標	件	20	30	34	10
		実績		7	20	34	10
	達成率	%	-	35.00	66.67	100.00	100.00
	整備率	目標	%				
実績							
-	達成率	%	-	-	-	-	
	目標	-					
-	実績	-					
	達成率	%	-	-	-	-	
備考	26年度の状況 用地交渉並びに買収。 27年度の計画 用地交渉並びに買収。工事着手 28年度の計画 道路築造並びに橋梁仮設橋架設工事						

事務事業名	県道弘沢茅野線・宮川地区の整備	事業期間	平成 24 ~ 32 年度	整理番号	05020101
担当部署	都市建設部	建設関連・バイパス対策室	建設関連対策係	作成担当者名	黒澤 俊彦
				連絡先	522

期	目標	実績	課題
第1期	用地、物件補償の契約 検討委員会会議の開催 地区説明会の開催 電線地中化工事発注準備	用地、物件補償の交渉 委員会の実施(5/1) 工事地区説明会の実施(5/7) 電線地中化工事発注	工事に着手仕出すも、未だ契約に時間を要する箇所が残っている。
第2期	用地、物件補償の契約 検討委員会会議の開催 地区説明会の開催 工事発注準備(道路、仮橋)	用地、物件補償の交渉 委員会・地区説明会開催なし 工事発注準備(道路、地下埋設) 仮橋下部工工事発注済	各種工事の準備、着手を進める。一方、未だ契約に時間を要する用地が残っている。
第3期	用地、物件補償の契約 検討委員会開催 工事発注(道路、地下埋設) 仮橋下部工工事実施	用地、物件補償の契約(11/18) 委員会の実施(10/15、11/24) 工事発注(道路、地下埋設、舗装) 仮橋下部工工事実施	各種工事の発注を進める。一方、未だ契約に時間を要する用地が残っている。
第4期	用地、物件補償の契約 検討委員会開催 工事実施(道路、地下埋設、舗装、仮橋下部工) 現道下げ部の計画、工事調整	用地、物件補償の契約(2/18) 工事実施(道路、地下埋設、舗装) 仮橋下部工工事実施	契約に時間を要する用地が残っていたがほぼ完了することが出来た。今後は、各種工事の施工となるため、地権者や住民への計画工程などの連絡及び調整が必然である。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 用地交渉を進めるもまだ契約に至らない。	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止 性
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策) 各種工事が着手されているが、現道拡幅及び複数の業者が同一現場での施工にあたるため、計画通り事業を進捗するには、地権者や住民への施工工程等の連絡、調整をしっかりと行う必要がある。	② ⑤ ⑦ ③ ⑥ ⑨ ④ ⑧ ⑩ ① 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

視点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	A
チェック					4					4					4	
課題	県の予算により工事の事業量が左右される心配もあるが、事業が計画通り進捗するよう、地権者及び地域住民へ連絡、協力を呼びかけるよう調整を図っていく。															記号の定義 A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要
	前年度総合評価判定															A
	前年度評価シート整理番号															05020101

総合評価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後					
	本路線は、茅野市街地と国道20号を結ぶ主要幹線道路であり、周辺住民の生活道路になっていることから、早期事業完成に向けて取り組む必要がある。	本路線は、茅野市街地と国道20号を結ぶ主要幹線道路であり、周辺住民の生活道路になっていることから、早期事業完成に向けて県と連携しながら取り組みを進められた。用地についても県と連携して契約締結に至った。工事中で御柱祭を迎えたが、仮囲いや仮復旧により影響を少なくする対策に努めた。									
前年度改革・改善策の実施状況	一部実施					前年度細施策評価における今後の方向性					

改革・改善の方向性(ACTION)	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後									
	成果の方向性	拡 充			②	⑤	⑦	成果の方向性	拡 充						
	現 状 維 持			③	⑥	⑨		現 状 維 持					④		
	縮 小			④	⑧	⑩		縮 小							
	休 廃 止	①						休 廃 止							
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性									
改革・改善策	H27年度には、道路改築工事に着手する。上川橋の仮設も始まる。H28年4月には、御柱祭も開催されることから、用地買収並びに物件補償契約の完了が急務となる。引き続き県と連携して事業の促進に努める。					引き続き県と関係者と連携して、早期完成に向け事業の促進に努める。									

最終評価年月日	平成28年4月4日	最終評価責任者	建設関連・バイパス対策室長	篠原 尚一
---------	-----------	---------	---------------	-------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	栗沢橋の拡幅及び栗沢付近の歩道整備促進	事業期間	平成 23 ~ 28 年度	整理番号	05020102
担当部署	都市建設部	建設関連・バイパス対策室	建設関連対策係	作成担当者名	黒澤俊彦
				連絡先	522

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実
				細施策	05	国・県道の整備促進
				事務事業	02	栗沢橋の拡幅及び栗沢付近の歩道整備事業
	予算事業名			会計コード	001	款 08 項 02 目 04 事業 01
	事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)	県道上榎木矢ヶ線の栗沢橋の拡幅、及び栗沢区内の歩道の整備促進が必要である。				
	現状と背景 (どうして)	栗沢橋付近において、通勤時間帯に交通渋滞が発生しており、通学路に指定されている道路であることから、歩道の整備を促進することが必要である。				
	目的 対 象 (ど ん な 状 態 に し た い か)	受益者 (誰のために)	道路利用者及び沿道住民、学生			
		対象 (直接働きかける)	長野県諏訪建設事務所、行政区及び関係地権者			
	意 図 (ど ん な 状 態 に し た い か)	事業主体になる長野県諏訪建設事務所に働きかけ、栗沢橋の拡幅及び歩道の整備を行う。				
	手段・方法 (どうやって)	行政区からの要望を受け、長野県諏訪建設事務所へ整備促進を要望する。				
N （ ）	活動 指 標 の 作 成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		用地・補償交渉の立会	用地・補償交渉人数	人	建設事務所の要請による	
		道路築造	築造延長	m		250
	成 果 指 標	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		用地・補償交渉契約件数	契約件	件	契約件数÷地権者数	100
		道路築造	整備率	%	整備済延長/計画全体延長	100

項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度(予算 又は決算額)	平成28年度 事業計画(予算)	
事業費等(a)	円						
財源内訳							
国庫支出金	円						
県支出金	円						
地方債	円						
その他特定財源	円						
一般財源	円						
職員数	人			0.01	0.10	0.10	
正規職員	人						
嘱託職員	人						
臨時職員	人						
合計	人			0.01	0.10	0.10	
対象(者)数							
延利用(者)数(b)							
単位コスト(a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	円	-	-	-	-	13.00	
D （ ）	活動 指 標	用地・補償交渉人数	目標	人			
			実績				
	築造延長	目標	m				
		実績					
	-	目標	-				
		実績					
O （ ）	成 果 指 標	契約件	目標	件	10	10	1
			実績		7	8	0
	達成率	%	-	70.00	80.00	0.00	100.00
	整備率	目標	%				
		実績					
	達成率	%	-	-	-	-	-
備考	26年度の状況 諏訪建設事務所用地買取契約を実施。 27年度の計画 諏訪建設事務所で残契約の交渉。 28年度の計画 残契約の交渉、契約。						

事務事業名	粟沢橋の拡幅及び粟沢付近の歩道整備促進	事業期間	平成 23 ~ 28 年度	整理番号	05020102
担当部署	都市建設部	建設関連・バイパス対策室	建設関連対策係	作成担当者名	黒澤 俊彦
				連絡先	522

期	目 標	実 績	課 題
第1期	残りの用地交渉並びに契約	交渉課題等の整理	地権者と交渉並びに契約までには時間を要する
第2期	残りの用地交渉並びに契約 工事発注準備	事業計画への承諾交渉 工事発注中止	地権者は、工事計画に難色あり。今後は、計画の承諾交渉となり、一からのスタートとなる。
第3期	詳細設計並びに計画への承諾交渉	事業計画への承諾交渉 建設委員会実施(10/16)	承諾を得るには時間を要する。
第4期	詳細設計並びに計画への承諾交渉	本計画の修正設計委託を実施	修正設計案を元に来年度承諾交渉をする。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 地権者は、工事計画に難色があり、今後は、計画の承諾交渉からとなり、一からのスタートとなる。	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止 性
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策） 修正設計案を元に来年度は事業計画の承諾交渉を進め、用地交渉、契約と計画を進める。	② ⑤ ⑦ ③ ⑥ ⑨ ④ ⑧ ⑩ ① 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A

課題	まだ事業計画に対し承諾を得られない地権者がいる。	記号の定義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要
		前年度総合評価判定 A 前年度評価シート整理番号 05020102

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
		本路線は、通学路に指定されている道路であるが、歩道が整備されていない道路であるため、早期に事業を完成させることが必要な事業である。					本路線は、通学路に指定されている道路であるが、歩道が整備されていない道路であるため、早期に事業を完成させることが必要な事業である。			
	前年度改革・改善策の実施状況 一部実施					前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	今後の方向性	成果の方向性	拡 充	②	⑤	⑦	成果の方向性	拡 充		
		現 状 維 持	③	⑥	⑨		現 状 維 持		レ	
		縮 小	④	⑧	⑩		縮 小			
		休 廃 止	①				休 廃 止			
		皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				
改革・改善策	合意を得ていない一部の地権者に県と連携しながら整備計画の合意を得るよう努め、用地、物件補償の交渉に協力する。					合意を得ていない一部の地権者に県と連携しながら整備計画の合意を得るよう努め、用地、物件補償の交渉に協力する。				

最終評価年月日	平成28年4月4日	最終評価責任者	建設関連・バイパス対策室長	篠原 尚一
---------	-----------	---------	---------------	-------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名		湯川バイパスの早期実現			事業期間	平成 26 ~ 33 年度	整理番号	05020103								
担当部署		都市建設部		建設関連・バイパス対策室	建設関連対策係	作成担当者名	黒澤俊彦		連絡先	522						
計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり										
			施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実											
			細施策	05	国・県道の整備促進											
			事務事業	03	湯川バイパスの整備事業											
	予算事業名						会計コード	001	款	08	項	02	目	04	事業	01
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	柏原バイパスの先線が生活道路と重複しているため、新たにバイパスを作り、生活道路と分けたい。														
	現状と背景 （どうして）	観光地を控え道路幅員が狭く、観光シーズンは渋滞がはげしいため、早期事業化が必要。														
	目的	受益者 （誰のために）	道路利用者、沿線住民													
		対象 （直接働きかける）	長野県諏訪建設事務所													
		意図 （どんな状態にしたいか）	湯川バイパスの整備により円滑な交通体系に同時に歩道整備も行っていきたい。													
	手段・方法 （どうやって）	地元区からの要望を受け諏訪建設事務所へ早期事業着手へ要望する。地元委員会で、検討し、地権者の協力を得て事業を行う。														
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値							
		整備計画	整備延長	m	バイパスの整備計画延長				2,600							
		計画への課題協議	協議実施回数	回	地元建設委員会・県・市による協議				3							
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値							
		事業計画	進捗率	%	事業全体計画/当年度計画				100							
		課題協議	進捗率	%					100							

項	目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
実 施 状 況 （ D O ）	事業費等 (a)	円						
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
	一般財源	円						
	職員数	人	0.01	0.01	0.50	0.50	0.50	
	正規職員	人						
	嘱託職員	人						
臨時職員	人							
合計	人	0.01	0.01	0.50	0.50	0.50		
	対象（者）数							
	延利用（者）数 (b)							
	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
	受益者負担額	円						
	市民一人当たりのコスト	円	-	-	-	-	67.00	
O （ ）	活動指標	整備延長	目標	m				
		実績						
		達成率	%	-	-	-	-	-
	協議実施回数	目標	回	3	4	3	11	5
		実績		3	4	3	11	5
		達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	成果指標	進捗率	目標	%				
		実績						
		達成率	%	-	-	-	-	-
	進捗率	目標	%	100	100	100	100	100
実績			100	100	100	100	100	
達成率		%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	
備考	26年度の状況 詳細設計、地質調査測量、構造物橋梁設計を実施。 27年度の計画 詳細設計、用地測量を行う。 28年度の計画 用地単価発表、用地買収。							

事務事業名	湯川バイパスの早期実現	事業期間	平成 26 ~ 33 年度	整理番号	05020103
担当部署	都市建設部	建設関連・バイパス対策室	建設関連対策係	作成担当者名	黒澤 俊彦
				連絡先	522

期	目 標	実 績	課 題
第1期	橋梁予備設計実施 道路詳細設計(案)の検討 建設委員会の開催	橋梁予備設計実施中 道路詳細設計の検討会実施(6/10、6/18) 建設委員会の実施(5/28)	計画による用地の残地や、市道の取付等の課題がある。
第2期	橋梁予備設計実施 道路詳細設計(案)の検討 建設委員会の開催 設計地区説明会	道路詳細設計、橋梁詳細設計実施中 用地測量委託準備 建設委員会開催(7/28、8/13) 設計地区説明会(一期分)開催(8/27)	計画による用地の残地について課題がある。
第3期	道路詳細設計、橋梁詳細設計実施 用地測量実施 建設委員会開催 設計地区説明会(二期分)開催	道路詳細設計、橋梁詳細設計実施中 用地測量委託実施 建設委員会実施(10/19、11/11) 設計地区説明会(第二工区)実施(10/29)	計画による用地の残地について課題がある。
第4期	道路詳細設計、橋梁詳細設計実施 用地測量実施 建設委員会開催 用地単価発表説明会開催	道路詳細設計実施中 用地測量委託実施 建設委員会実施(2/16) 用地単価発表説明会(ほ場内)実施(2/26)	計画による用地の残地について課題がある。

事 中 評 価																	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 引続き残地、市道の取付等の課題について、建設委員会を開催し検討が必要である。	今 後 の 方 向 性																
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策) 計画に対する課題が、解消するよう建設委員会を重ね、検討していく。	成 果 の 方 向 性																
	<table border="1"> <tr> <td>拡 充</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>現 状 維 持</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>縮 小</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>休 廃 止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	拡 充	②	⑤	⑦	現 状 維 持	③	⑥	⑨	縮 小	④	⑧	⑩	休 廃 止	①		
拡 充	②	⑤	⑦														
現 状 維 持	③	⑥	⑨														
縮 小	④	⑧	⑩														
休 廃 止	①																
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性																

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A

課 題	県の予算により事業量が左右される。	記 号 の 定 義	A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要
		前年度総合評価判定	A
		前年度評価シート整理番号	05020103

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
		北山芹ヶ沢地区及び北山湯川地区を通る国道152号は、狭隘な道路であり、また、歩道の整備が遅れている道路であることから、円滑な交通の確保と歩行者等の安全対策のため、早期事業完成させる必要がある。	北山芹ヶ沢地区及び北山湯川地区を通る国道152号は、狭隘な道路であり、また、歩道の整備が遅れている道路であることから、円滑な交通の確保と歩行者等の安全対策のため、早期事業完成させる必要がある。							
	前年度改革・改善策の実施状況	一部実施	前年度細施策評価における今後の方向性							

改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 (A C T I O N)	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後																														
	今 後 の 方 向 性	成 果 の 方 向 性	<table border="1"> <tr> <td>拡 充</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>現 状 維 持</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>縮 小</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>休 廃 止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	拡 充	②	⑤	⑦	現 状 維 持	③	⑥	⑨	縮 小	④	⑧	⑩	休 廃 止	①			成 果 の 方 向 性	<table border="1"> <tr> <td>拡 充</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現 状 維 持</td> <td></td> <td></td> <td>レ</td> </tr> <tr> <td>縮 小</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>休 廃 止</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	拡 充				現 状 維 持			レ	縮 小				休 廃 止		
拡 充	②	⑤	⑦																																	
現 状 維 持	③	⑥	⑨																																	
縮 小	④	⑧	⑩																																	
休 廃 止	①																																			
拡 充																																				
現 状 維 持			レ																																	
縮 小																																				
休 廃 止																																				
		皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性			皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性																															

改 革 ・ 改 善 策	今後、県と連携して計画どおり事業を進捗させ、地元建設委員会と県と市で課題の解決に努める。	今後、県と連携して計画どおり事業を進捗させ、地元建設委員会と県と市で課題の解決に努める。
-------------	--	--

最終評価年月日	平成28年4月4日	最終評価責任者	建設関連・バイパス対策室長	篠原 尚一
---------	-----------	---------	---------------	-------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名		国・県土木事業の整備促進			事業期間	平成	～	年度	整理番号	05020106							
担当部署		都市建設部		建設関連・バイパス対策室	建設関連対策係	作成担当者名		黒澤俊彦	連絡先	522							
計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり											
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実											
				細施策	05	国・県道の整備促進											
				事務事業	06	-											
	予算事業名							会計コード	001	款	08	項	02	目	04	事業	01
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	国、県（諏訪建設事務所）が実施する道路・河川などの建設事業について、市の窓口として、関係する区、自治会及び地権者との連絡調整を行っている。 また、行政区からの要望箇所を国、県へ進達し修繕、改良を図っていただくよう要望し、事業に際す工事負担金事務を行っている。															
	現状と背景 （どうして）	国の土木機関、長野県諏訪建設事務所が実施する建設事業について地元への依頼事項、あるいは地元からの要望事項などの連絡調整を図る市の窓口として、事業の円滑な進行を目的に事務を行っている。															
目的	対象 （誰のために）	利用者及び隣接住民。															
	対象 （直接働きかける）	国の土木機関、長野県諏訪建設事務所及び区、自治会、関係地権者。															
	意図 （どんな状態にしたいか）	事業主体の国の土木機関、長野県諏訪建設事務所と区、自治会、及び地権者との連絡調整をして事業の円滑な進行を図る。															
	手段・方法 （どうやって）	事業説明会の開催。区、地権者個々の要望の伝達。現場立会。															
（ N ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など					最終目標値							
		活動指標	事業・工事説明会	説明会数	回	事業主体の要請に応じて											
		現場立会	現場立会数	回	事業主体及び関係者の要請に応じて												
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など					最終目標値							
					事務事業の性格上数値の算出は困難である。												

実施状況	項目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算又は決算額）	平成28年度事業計画（予算）		
			事業費等(a)	円	7,982,150	7,314,841	7,751,552	6,834,376	8,000,000
財源内訳	国庫支出金	円							
	県支出金	円							
	地方債	円	7,100,000	6,500,000	6,900,000	6,100,000	7,200,000		
	その他特定財源	円							
職員数	一般財源	円	882,150	814,841	851,552	734,376	800,000		
	正規職員	人	0.25	0.25	0.25	0.39	0.39		
	嘱託職員	人							
	臨時職員	人							
	合計	人	0.25	0.25	0.25	0.39	0.39		
状況	対象（者）数								
	延利用（者）数(b)								
	単位コスト(a)/(b)	円	-	-	-	-	-		
	受益者負担額	円							
（ D O ）	活動指標	説明会数	目標	回	9	12	14	18	10
			実績	回	9	12	14	18	10
		達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	
		現場立会数	目標	回	30	40	40	45	40
			実績	回	30	40	40	45	40
		達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	
	成果指標	-	目標	-	-	-	-	-	
			実績	-	-	-	-	-	
		達成率	%	-	-	-	-	-	
		-	目標	-	-	-	-	-	
			実績	-	-	-	-	-	
		達成率	%	-	-	-	-	-	
備考	国・県が実施主体となる事業の調整事務のため、成果指標の主目的設定は困難。								

事務事業名	国・県土木事業の整備促進	事業期間	平成	～	年度	整理番号	05020106
担当部署	都市建設部	建設関連・バイパス対策室	建設関連対策係	作成担当者名	黒澤俊彦	連絡先	522

期	目標	実績	課題
第1期	行政区からの要望箇所の踏査、要望書の進達 現地立会い、地区説明会 各種業務の関連調整	行政区要望箇所の踏査、要望書の進達を行う(15件) 現地立会い、地区説明会の実施(随時) 各種業務の関連調整を実施(随時)	行政区要望の維持修繕要望は、要望数も多く寄せられ、全ての要望に対応できない
第2期	行政区からの要望箇所の踏査、要望書の進達 現地立会い、地区説明会 各種業務の関連調整	行政区要望箇所の踏査、要望書の進達を行う(11件) 現地立会い、地区説明会の実施(随時) 各種業務の関連調整を実施(随時)	行政区要望の維持修繕要望は、要望数も多く寄せられ、全ての要望に対応できない
第3期	行政区からの要望箇所の踏査、要望書の進達 現地立会い、地区説明会 各種業務の関連調整	行政区要望箇所の踏査、要望書の進達を行う(8件) 現地立会い、地区説明会の実施(随時) 各種業務の関連調整を実施(随時)	行政区要望の維持修繕要望は、要望数も多く寄せられ、全ての要望に対応できない
第4期	行政区からの要望箇所の踏査、要望書の進達 現地立会い、地区説明会 各種業務の関連調整	行政区要望箇所の踏査、要望書の進達を行う(16件) 現地立会い、地区説明会の実施(随時) 各種業務の関連調整を実施(随時)	行政区要望の維持修繕要望は、要望数も多く寄せられ、全ての要望に対応できない

事中評価													
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 行政区要望の大半は、維持修繕に関する要望である。	今後の方向性												
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策) 維持修繕要望以外の事業については、計画通り事業が進捗するよう、県、地元の調整を図り協力していく。	方向性												
	<table border="1"> <tr> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>皆減縮小 現状維持 拡大 コスト投入の方向性</p>	②	⑤	⑦	③	⑥	⑨	④	⑧	⑩	①		
②	⑤	⑦											
③	⑥	⑨											
④	⑧	⑩											
①													

評価年度	当年度
------	-----

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	A
課題	国、県の予算により事業量が左右される。															
記号の定義	A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定	A															
前年度評価シート整理番号	05020112															

総合評価	細施策評価前					細施策評価後				
	国及び県が行う事業が円滑に進むよう、地元、関係団体等との調整を行うことが必要である。						国及び県が行う事業が円滑に進むよう、地元、関係団体等との調整を行うことが必要である。			
前年度改革・改善策の実施状況	一部実施					前年度細施策評価における今後の方向性				

改革・改善の方向性(ACTION)	細施策評価前					細施策評価後					
	今後の方向性	成果の方向性	②	⑤	⑦	③	⑥	⑨	④	⑧	⑩
	休廃止	①									
		皆減縮小 現状維持 拡大 コスト投入の方向性					皆減縮小 現状維持 拡大 コスト投入の方向性				
改革・改善策	今年度実施事業の説明を受け、円滑に事業が進むよう調整を行う。					今年度実施事業の説明を受け、円滑に事業が進むよう調整を行う。					

最終評価年月日	平成28年4月4日	最終評価責任者	建設関連・バイパス対策室長	篠原 尚一
---------	-----------	---------	---------------	-------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	国道20号バイパス整備促進			事業期間	平成	～	年度	整理番号	05020105					
担当部署	都市建設部	建設関連・バイパス対策室	建設関連対策係	作成担当者名	大谷 勝己			連絡先	522					
計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	無	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり								
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実								
				細施策	05	国・県道の整備促進								
				事務事業	05	国道20号バイパス整備事業								
	予算事業名				会計コード	001	款	08	項	02	目	04	事業	01
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	国土交通省長野国道事務所が、直轄事業として国道20号坂室バイパス建設事業を施行している。茅野市は、国の計画案について地元対策委員会を通じ、地権者からの要望を聴取し、長野国道事務所と事業計画案に同意を得よう会議、協議等の調整を図り事業の促進に努める。また、現道、バイパス及び4車線化計画に関する要望、案件について長野国道事務所、地元対策委員会、区、地権者及び県、市関係部局との連絡調整を行っている。												
	現状と背景 （どうして）	国道20号坂室バイパスは、現国道20号坂室付近や中河原での交通渋滞が激しく、バイパスや4車線化の早期開通が望まれている。この事業に対し、地元自治体として施策の実現や課題の解決を図る上で、個別に行うよりも、窓口を調整し効率的に行う必要があるため。												
	目的 （どんな状態にしたいか）	受益者 （誰のために）	国道利用者及び現国道20号沿線											
		対象 （直接働きかける）	坂室バイパス4車線化に掛る地権者、地元役員会及び長野国道事務所											
		意図	長野国道事務所と地元役員会、地権者及び市関係部局との連絡調整をして坂室バイパス4車線化の円滑な進行を図る。											
	手段・方法 （どうやって）	茅野区、中河原区それぞれの委員会を中心に地権者から個々の要望を集約し、長野国道事務所と協議、検討を進め、地権者から事業計画への同意を得る。												
N （ ）	活動指標 の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値					
		整備計画	整備区間	m	バイパスの整備計画区間				680					
		計画案への課題協議	協議実施回数	回	委員会、長野国道事務所、市による				10					
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値					
		事業計画	進捗率	%					100					
		課題協議	進捗率	%					100					

項	目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
実 施 状 況 （ D O ）	事業費等 (a)	円						
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
	一般財源	円						
	職員数	人		0.80	0.80	0.80	0.80	
	正規職員	人						
	嘱託職員	人						
臨時職員	人							
合計	人		0.80	0.80	0.80	0.80		
	対象（者）数							
	延利用（者）数 (b)							
	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
	受益者負担額	円						
	市民一人当たりのコスト	円	-	-	-	-	108.00	
O （ ）	活動指標	整備区間	目標	m				
		実績	m					
	協議実施回数	目標	回		4	10	10	5
		実績	回		4	10	12	5
	-	達成率	%		100.00	100.00	120.00	100.00
		目標	%					
	成果指標	進捗率	目標	%				
		実績	%					
	進捗率	目標	%		100	100	100	100
		実績	%		100	100	100	100
達成率	目標	%						
	実績	%		100.00	100.00	100.00	100.00	

備考 事業計画の進捗は、当該区間の一部で用地幅杭の打設の工程まで進んでいる。しかし、国土交通関東地方整備局 長野国道事務所によると、道路用地取得は、地権者のとの交渉があることから、今後のスケジュールは未定で、拡幅工事完了までには、今後およそ5年から10年くらいかかることが推定されている。

事務事業名	国道20号バイパス整備促進	事業期間	平成	～	年度	整理番号	05020105
担当部署	都市建設部	建設関連・バイパス対策室	建設関連対策係	作成担当者名	大谷 勝己	連絡先	522

期	目 標	実 績	課 題
第1期	茅野区対策委員会の開催 宮川茅野区地区説明会の開催	長野国道事務所打合せ(随時) 茅野区対策委員会実施(5/18、6/1、6/8)	宮川茅野区は、設計(案)の詳細な部分で時間を要す。 中河原区委員会の再立ち上げ。
第2期	茅野区対策委員会の開催 宮川茅野区地区説明会の開催 中河原区委員会と懇談開催	長野国道事務所打合せ(随時) 茅野区対策委員会実施(7/27) 宮川茅野区地区説明会の開催(9/7) 中河原区委員会の開催(8/23 職員の間席はなし)	宮川茅野地区の幅杭設置 中河原区委員会と情報交換が難しい。
第3期	宮川茅野地区の幅杭設置 中河原区委員会と懇談開催	長野国道事務所打合せ(随時) 大口堰との協議(9/25、10/13) 宮川茅野地区 幅杭設置(11/2～ 95%終了) 中河原区等との懇談会(11/15 11/26)	宮川茅野地区の幅杭設置完了
第4期	宮川茅野地区の幅杭設置完了 中河原区等との設計協議を進める	長野国道事務所打合せ(随時) 宮川茅野地区 幅杭設置(1/20 終了) 中河原区等との懇談会等(2/15 3/6 3/19)	中河原地区との協議・合意形成

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止 性
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)	①
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A
課題	地元の合意を得ること。															
記号の定義	A:計画どおり事業を進めることが適当 B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定	A															
前年度評価シート整理番号	05020106															

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後					
	中河原交差点を中心とした慢性的な交通渋滞を解消するために、宮川地区4車線化事業の必要性を説明して、事業の早期着手に努める必要がある。	中河原交差点を中心とした慢性的な交通渋滞を解消するために、宮川地区4車線化事業の必要性を説明して、事業の早期着手に努める必要がある。									
前年度改革・改善策の実施状況	一部実施					前年度細施策評価における今後の方向性					

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	今 後 の 方 向 性	成 果 の 方 向 性	拡 充	②	⑤	⑦	成 果 の 方 向 性	拡 充		
	現 状 維 持		③	⑥	⑨	現 状 維 持				
	縮 小		④	⑧	⑩	縮 小				
	休 廃 止	①				休 廃 止				
			皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性			
改 革 ・ 改 善 策	今まで、中河原区、茅野区の両区足並みを揃え、対策委員会を中心に進めてきましたが、中河原区、茅野区の進捗が異なるため、今後は、各区ごと対策委員会を中心に事業を進める方向で、地権者の同意を得るよう国と対策委員会と調整を図り、課題を一つずつ解決し、粘り強く事業の促進に努める。					今まで、中河原区、茅野区の両区足並みを揃え、対策委員会を中心に進めてきましたが、中河原区、茅野区の進捗が異なるため、今後は、各区ごと対策委員会を中心に事業を進める方向で、地権者の同意を得るよう国と対策委員会と調整を図り、課題を一つずつ解決し、粘り強く事業の促進に努める。				

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	建設関連・バイパス対策室長	篠原 尚一
---------	------------	---------	---------------	-------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	上川橋線他整備事業（県道）			事業期間	平成 13 ~ 33 年度	整理番号	05030101
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	作成担当者名	岩崎 研二	連絡先	532
計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり	
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実	
				細施策	06	都市計画道路の整備	
				事務事業	01	上川橋線整備事業	
	予算事業名			会計コード	001	款	08
				項	04	目	01
				事業	05		
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	長野県が行う街路事業に対して、事業費の一部を決められた率により負担し、その事業の推進を図っています。該当路線は、市街地骨格道路として茅野駅へのアクセス性の向上と沿道環境の整備のために実施するものです。 ＜対象路線＞ H27年度：上川橋線（宮川茅野区画整理関連）、上川橋線（宮川茅野）					
	現状と背景 （どうして）	県道の整備により安全、円滑な交通機能の確保と茅野駅周辺の都市機能の再生を目指します。このことで利益を受ける茅野市が、工事に要する費用の一部を負担するものです。（道路法、地方財政法）					
	目的 （どんな状態にしたいか）	受益者 （誰のために）	市民、来街者、道路利用者				
		対象 （直接働きかける）	長野県、地域住民				
		意図	県道である茅野市内の都市計画道路の整備を推進し、安全・円滑な交通と快適環境を確保します。また、茅野駅周辺の都市機能の再生を図ります。				
	手段・方法 （どうやって）	・茅野市は、長野県が施行する街路整備事業に要する費用の一定割合を負担し、事業推進の円滑化を図ります。 補助事業の際の負担金：10% 県単独事業の際の負担金：15%					
N （ ）	活動指標 の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など		最終目標値
		予算に対する負担金の納付額	納入負担金額	円	事業執行状況（%）＝負担金額／予算金額		100
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など		最終目標値
		都市計画道路の整備状況	整備（進捗）率	%	当年度事業費/全体事業費		100

項	目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
実 施 状 況 （ D O ）	事業費等 (a)	円	4,308,150	41,800,000	68,270,000	55,997,057	38,450,000	
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円	3,600,000	38,400,000	61,443,000	35,343,000	34,600,000	
	その他特定財源	円						
	一般財源	円	708,150	3,400,000	6,827,000	20,654,057	3,850,000	
	職員数	人	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	
	正規職員	人						
	嘱託職員	人						
臨時職員	人							
合計	人	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10		
対象（者）数			55,775	55,515	55,561	55,435	55,435	
延利用（者）数 (b)			55,775	55,515	55,561	55,435	55,435	
単位コスト (a)/(b)	円		77	753	1,229	1,010	707	
受益者負担額	円							
市民一人当たりのコスト	円		77.00	747.00	1,220.00	1,000.00	700.00	
活動指標	納入負担金額	目標	円	4,000,000	27,000,000	68,270,000	39,270,000	50,000,000
		実績	円	4,308,150	41,800,000	68,270,000	40,407,442	50,000,000
	達成率	%	107.70	154.81	100.00	102.90	100.00	
	-	目標	-					
実績		-						
達成率	%	-	-	-	-	-		
成果指標	整備（進捗）率	目標	%	1	15	41	56	65
		実績	%	1	15	41	56	65
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	
	-	目標	-					
実績		-						
達成率	%	-	-	-	-	-		
備考	「対象(者)数」及び (f)の「延利用(者)数」の数値については、本事務が不特定多数に影響を及ぼすものでその数値を把握できないため、「市の人口」を用いることとした。							

事務事業名	上川橋線他整備事業（県道）	事業期間	平成 13 ~ 33 年度	整理番号	05030101
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	作成担当者名	岩崎 研二
				連絡先	532

期	目 標	実 績	課 題
第1期	・用地費、補償費の国庫補助金の確定と、工事発注準備（諏訪建設事務所）	用地費、物件移転補償費の確定（諏訪建設事務所）	用地、物件補償について地権者との交渉（諏訪建）
第2期	用地、物件補償について地権者との交渉（諏訪建）	用地、物件補償について地権者との交渉（諏訪建）	用地、物件補償について地権者との契約（諏訪建）
第3期	用地、物件補償について地権者との契約（諏訪建）	用地、物件補償について地権者との交渉（諏訪建） 上川橋仮橋下部工の着手	用地、物件補償について地権者との契約（諏訪建）
第4期	用地、物件補償について地権者との交渉（諏訪建） 仮橋橋脚部工事了	用地、物件補償についてはほぼ完了した。 上川橋仮橋下部工工事を実施中（繰越工事） 改築部の歩道、車道整備工事を実施中（繰越工事）	繰越工事の早期完了 国道20号との交差点供用に向けての信号機設置時期が未定

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 ・移転に伴う住宅建築の完了待ち（左岸橋台部） ・武井鉄男宅の用地交渉	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策） ・上川橋仮説上部工の建設	①
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A

課 題	県の道路整備の優先順位及び財源により、事業量が左右されます。	記 号 の 定 義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要
		前年度総合評価判定
		前年度評価シート整理番号 05030101

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	県道は、主要幹線としての都市計画道路であり、市及び地域住民の方々にとって早期完成が望まれています。県と市の事業方針に基づき、街路事業を推進することが適切と考えます。						県道は、主要幹線としての都市計画道路であり、市及び地域住民の方々にとって早期完成が望まれています。県と市の事業方針に基づき、街路事業を推進することが適切と考えます。			
	前年度改革・改善策の実施状況					前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後									
	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止					②	⑤	⑦							
					③	⑥	⑨								
					④	⑧	⑩								
					①										
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性									

改 革 ・ 改 善 策	県と連携のもと地元の理解を得ながら事業を進める。	県と連携のもと地元の理解を得ながら事業を進める。
-------------	--------------------------	--------------------------

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	都市計画課長	細 田 信 一
---------	------------	---------	--------	---------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	快適環境整備事業			事業期間	平成 8 ~ 年度	整理番号	05030104
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	作成担当者名	宮坂 悠哉	連絡先	532
計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05 第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり		
				施策	01 第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実		
				細施策	06 都市計画道路の整備		
				事務事業	04 快適環境整備事業		
	予算事業名				会計コード	001 款 08 項 04 目 02 事業 01	
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	都市計画道路の街路樹、街路灯やその他付帯施設の維持管理を適切に行い、車両や歩行者の交通の安全と沿道の快適環境を確保します。					
	現状と背景 （どうして）	街路樹について病害虫の発生は木を衰えさせ、木の根元の雑草は景観を害し、車道や歩道に張り出した枝は安全な通行の支障となります。また、街路灯の故障、施設の破損は、通行の安全性の低下となるとともに街の良好な環境を損ないますので、整備を行っていく必要があります。					
	目的 （どんな状態にしたいか）	受益者 （誰のために）	車両及び歩行者				
		対象 （直接働きかける）	街路樹、街路灯、歩道施設等				
		意図	街路の維持管理を行い、都市計画道路を通行する人や車の安全性、快適性を高め、沿道の良好な生活環境を確保します。				
	手段・方法 （どうやって）	街路灯の補修、施設修繕、街路樹の剪定等専門的な業務は業者委託しています。草取り・草刈り・剪定等で可能なものは沿道の地元区に委託しており、他の枝落としや草取り・草刈り・灌水等は、職員が実施しています。					
N （ ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
		草取り、剪定をする。	草取り等回数	回	草取り等を行った回数（1路線あたり3回×6路線）	18	
		施設の補修	補修件数	件	補修を行った件数		
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
		街路樹の適切な維持管理を行う。	草取り等管理	%	実施回数／目標回数	100	
		必要な補修を実施する。	補修実施割合	%	施工件数／補修必要件数	100	

項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
事業費等 (a)	円	4,624,684	5,183,000	4,209,507	4,759,460	4,472,000	
財源内訳							
国庫支出金	円						
県支出金	円						
地方債	円						
その他特定財源	円						
一般財源	円	4,624,684	5,183,000	4,209,507	4,759,460	4,472,000	
職員数	人	0.30		0.30	0.30	0.30	
正規職員	人						
嘱託職員	人						
臨時職員	人						
合計	人	0.30		0.30	0.30	0.30	
対象（者）数	人	55,775	55,515	55,561	55,435	55,856	
延利用（者）数 (b)	人	55,775	55,515	55,561	55,435	55,856	
単位コスト (a)/(b)	円	83	93	76	86	80	
受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	円	82.00	93.00	75.00	85.00	80.00	
D （ ）	活動指標	草取り等回数	目標	回	18	18	18
			実績	回	18	18	18
		達成率	%	100.00	100.00	—	100.00
	補修件数	目標	件	9	5	5	5
		実績	件	9	14	12	5
		達成率	%	100.00	280.00	240.00	280.00
—	目標	—	—	—	—	—	
	実績	—	—	—	—	—	
	達成率	%	—	—	—	—	
O （ ）	成果指標	草取り等管理	目標	%	100	100	100
			実績	%	100	100	100
		達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00
	補修実施割合	目標	%	100	100	100	100
		実績	%	100	280	100	100
		達成率	%	100.00	280.00	100.00	100.00
備考	「対象(者)数」及び「延利用(者)数」の数値については、本事務が不特定多数に影響を及ぼすものでその数値を把握できないため、「市の人口」を用いることとした。						

事務事業名	快適環境整備事業	事業期間	平成 8 ~	年度	整理番号	05030104
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	作成担当者名	宮坂 悠哉	連絡先
						532

期	目 標	実 績	課 題
第1期	街路の維持管理を行い、通行する人や車の安全性、快適性を高め、沿道の良好な生活環境を確保する。	都市計画道路ごとの街路樹剪定委託の発注及び、地元区との草取り契約及び打合せ。	なし。
第2期	剪定委託業務受託者との打ち合わせ及び実施。草取り実施。	剪定委託業務受託者との打ち合わせ及び実施。草取り実施。	秋に行う剪定業務の日程調整。
第3期	秋剪定の日程調整及び実施。	秋剪定、及び草取り等の実施をすべて終えることができた。	次年度に向けての業務内容についての検討
第4期	冬季期間により活動なし。	冬季期間により活動なし。	次年度に向けての業務内容についての検討

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 草取り・草刈り・剪定等で可能なものは沿道の地元区に委託しておりますが、高齢化等により、年々受け入れが難しい状況になってきている。	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止 性
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策） より良い環境整備には維持管理が欠かせないため、毎年相応の費用が必要です。	② ⑤ ⑦ ③ ⑥ ⑨ ④ ⑧ ⑩ ① 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 年 度	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A

課題	街路環境の維持管理には、継続的な経費と地域の方々の協力が今後とも必要です。	記号の定義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要
前年度総合評価判定		
前年度評価シート整理番号	05030104	

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	都市計画道路の維持管理については、交通機能はもとより歩行者の快適空間を確保するため、今後とも市が主体となって継続的に行っていく必要があります。専門的な工事・修繕等以外は、沿線地区の住民の方々のご協力をいただきながら環境整備を行う現在の方法が望ましいと考えます。						都市計画道路の維持管理については、交通機能はもとより歩行者の快適空間を確保するため、今後とも市が主体となって継続的に行っていく必要があります。専門的な工事・修繕等以外は、沿線地区の住民の方々のご協力をいただきながら環境整備を行う現在の方法が望ましいと考えます。			
前年度改革・改善策の実施状況						前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	より良い環境整備には維持管理が欠かせないため、毎年相応の費用が必要です。また、愛するまちづくりからも各種団体の美化奉仕活動の意識向上にも期待するところです。						より良い環境整備には維持管理が欠かせないため、毎年相応の費用が必要です。また、愛するまちづくりからも各種団体の美化奉仕活動の意識向上にも期待するところです。			

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	都市計画課長	細 田 信 一
---------	------------	---------	--------	---------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	都市計画道路の見直し	事業期間	平成 22 ~ 年度	整理番号	05030105
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	作成担当者名	岩崎 研二
				連絡先	532

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり							
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実							
				細施策	06	都市計画道路の整備							
				事務事業	05	都市計画道路の見直し							
	予算事業名				会計コード	001	款	08	項	04	目	01	事業
事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	茅野市の都市計画道路は、23路線、約3.2kmが都市計画決定されていますが、30年以上にわたって未着手の路線も存在します。このような路線についての必要性、実現性、整備効果等を検証し、都市計画道路の変更・廃止を含めた見直しを行う必要があります。												
現状と背景 （どうして）	長年にわたって未着手の都市計画道路は、整備が進まないだけでなく、建築規制により土地所有者の私権を制限しています。												
目的	対象	受益者 （誰のために）	市民、通行者、土地所有者										
	対象	対象 （直接働きかける）	市民、土地所有者及び関係機関										
的	意図 （どんな状態にしたいか）	都市計画道路としての必要性、実現性の検証を行うことにより、都市計画道路の見直しを行います。この結果を地域住民に説明しながら都市計画変更を行っていくこととなります。											
手段・方法 （どうやって）	見直しは、「現状の把握」「見直し候補路線の抽出」「見直し候補路線の必要性の検討」「実現性の検討」「見直し案の検証」の5段階で行いますが、そのための基礎資料の作成から客観的分析に基づく見直し案の作成を実施します。その後、見直し案のデータをもとに、地区住民説明会他所定の都市計画道路の変更手続きを行い都市計画の変更を行う。												
N （ ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値				
		各路線ごとの地域住民説明会を開催する。	説明会開催回数	回	説明会を開催した回数								
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値				
		見直しの案件について「可」とする同意を得る。	「可」とした同意の割合	%	「可」とした同意の割合				100				

項	目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
実 施 状 況 （ ）	事業費等 (a)	円	3,685,500	499,800	900,000	896,400		
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
	一般財源	円	3,685,500	499,800	900,000	896,400		
	職員数							
	正規職員	人	0.30	0.30	0.30	0.10	0.10	
	嘱託職員	人						
臨時職員	人							
合計	人	0.30	0.30	0.30	0.10	0.10		
対象（者）数		55,775	55,515		55,475	55,475		
延利用（者）数 (b)		55,775	55,515		55,475	55,475		
単位コスト (a)/(b)	円	66	9	—	16	14		
受益者負担額	円							
市民一人当たりのコスト	円	66.00	9.00	16.00	16.00	13.00		
D O （ ）	活動指標	説明会開催回数	目標	回	2	2	3	1
			実績	回	2	2	3	1
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	—	
	—	目標	—	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—	—	
	達成率	%	—	—	—	—	—	
	成果指標	「可」とした同意の割合	目標	%	100	100	100	100
			実績	%	50	100	100	100
達成率	%	50.00	100.00	100.00	100.00	100.00		
—	目標	—	—	—	—	—		
	実績	—	—	—	—	—		
達成率	%	—	—	—	—	—		
備考	「対象(者)数」及び「延利用(者)数」の数値については、本事務が不特定多数に影響を及ぼすものでその数値を把握できないため、「市の人口」を用いることとした。 平成27年度予算は、平成26年度からの繰越額です。							

事務事業名	都市計画道路の見直し	事業期間	平成 22 ~	年度	整理番号	05030105
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	作成担当者名	岩崎 研二	連絡先
						532

期	目 標	実 績	課 題
第1期	・廃止案について、都市計画審議会への諮問 ・代替案についての地元協議	・市都市計画審議会開催(5月22日)、県都市計画審議会(6月4日)原案のとおり異議なし。 ・上原区との協議(6月11日)	・廃止についての告示
第2期	・廃止についての告示 ・代替案の詳細設計、用地測量、改修工事の一部発注	・廃止の決定告示(7月2日)	・今後も都計道路の廃止の必要性について検討
第3期	・GIS及び道路網図の改訂	・GISの道路廃止路線を反映させた。	・道路網図の改訂も順次行う必要がある。
第4期	・道路網図の改訂	・未実施	・残枚数を見ながら予算化が必要

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)	①
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	
------	--

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定				
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定					
チェック					4					4					4	A				
課題	見直し案については、各路線の関係する地域住民の同意が必要となります。各道路の目的を見極めていく。																			
CH E C K	細 施 策 評 価 前										細 施 策 評 価 後									
	前年度総合評価判定																			
	前年度評価シート整理番号 05030105																			

CH E C K	細 施 策 評 価 前	細 施 策 評 価 後
総合評価	都市計画道路の見直しは、未整備路線を対象としております。人口の減少や、景気低迷に加え地方財政状況などが計画を定めた時代とは大きく変化していることから、現状に見合った実施可能な計画道路に見直すことが望ましいと考えます。	都市計画道路の見直しは、未整備路線を対象としております。人口の減少や、景気低迷に加え地方財政状況などが計画を定めた時代とは大きく変化していることから、現状に見合った実施可能な計画道路に見直すことが望ましいと考えます。
	前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

改 革 ・ 改 善 策	今 後 の 方 向 性	細 施 策 評 価 前	細 施 策 評 価 後
改 革 ・ 改 善 策	今 後 の 方 向 性	成 果 の 方 向 性	成 果 の 方 向 性
		休 廃 止	休 廃 止
		皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性
		都市計画道路の見直しの結果を関係住民へ説明し理解を得て、一宮線と上道線について、廃止の手続きへ進んでいきたい。	都市計画道路の見直しの結果を関係住民へ説明し理解を得て、一宮線と上道線について、廃止の手続きへ進んでいきたい。

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	都市計画課長	細 田 信 一
---------	------------	---------	--------	---------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名		幹線道路整備事業（上道線）		事業期間	平成 27 ~ 29 年度	整理番号	05030120						
担当部署		都市建設部	都市計画課	都市計画係	作成担当者名	岩崎 研二	連絡先	532					
計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり							
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実							
				細施策	06	都市計画道路の整備							
				事務事業	05	都市計画道路の見直し							
	予算事業名	幹線道路整備事業（上道線）			会計コード	001	款	08	項	02	目	03	事業
事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	都市計画道路の見直しで廃止となった上道線につきまして、現道の市道1級12号線（上道）を生活重視の道路とし、地元住民が使いやすい道路として整備します。												
現状と背景 （どうして）	長年にわたり都市計画道路は、整備が進まないだけでなく、建築制限により土地所有者の私権を制限しているため、県指針に基づき未着手の路線について見直し作業を行い、廃止路線については廃止手続きを進め、代わりとなる整備を行います。												
目的	対象	受益者 （誰のために）	市民、通行者、土地所有者										
	対象	対象 （直接働きかける）	市民、通行者、土地所有者										
的	意図 （どんな状態にしたいか）	防災や安全のまちづくりから、狹隘箇所の特避所や側溝入れ替え、歩道整備と住環境を守りながらの整備を行います。代替整備は、住宅区域内の道路として整備し、都市計画道路に比べ工事費も大幅に縮減でき、安全のまちづくりにも繋がります。											
手段・方法 （どうやって）	整備の内容として、狹隘箇所への特避所の設置、狹隘区間の拡幅、老朽化した道路側溝の改修による道路幅の確保、道路線形による視距不足確保のための整備を行っていきます。												
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値				
		待避所設置及び狹隘箇所改修	設置及び改修箇所	箇所	設置及び改修箇所				11				
		道路側溝改修	改修延長	m	改修延長				787				
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値				
		待避所設置及び狹隘箇所改修	設置及び改修箇所	%	工事施工箇所/設置及び改修箇所				100				
		道路側溝改修	改修延長	%	工事改修延長/改修延長				100				

項	目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
実 施 状 況 （ D O ）	事業費等 (a)	円			10,000,000	9,386,820	63,911,000	
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円			9,000,000	8,400,000	57,400,000	
	その他特定財源	円						
	一般財源	円			1,000,000	986,820	6,511,000	
	職員数	人			0.10	0.10	0.30	
	正規職員	人						
	嘱託職員	人						
臨時職員	人							
合計	人			0.10	0.10	0.30		
対象（者）数					55,435	55,435	55,435	
延利用（者）数 (b)					55,435	55,435	55,435	
単位コスト (a)/(b)	円		-	-	180	169	1,194	
受益者負担額	円							
市民一人当たりのコスト	円		-	-	179.00	169.00	1,194.00	
活動指標	設置及び改修箇所	目標	箇所			0	5	
		実績				0	5	
	達成率	%			-	-	100.00	
	改修延長	目標	m				112	268
		実績						268
	達成率	%				-	100.00	
成果指標	設置及び改修箇所	目標	%			0	5	
		実績				0	5	
	達成率	%			#DIV/0!	#DIV/0!	100.00	
	改修延長	目標	%			0	112	268
		実績				0	112	268
	達成率	%				#DIV/0!	100.00	

備考 「対象(者)数」及び「延利用(者)数」の数値については、本事務が不特定多数に影響を及ぼすものでその数値を把握できないため、「市の人口」を用いることとした。

事務事業名	幹線道路整備事業（上道線）	事業期間	平成 27 ～ 29 年度	整理番号	05030120
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	作成担当者名	岩崎 研二
				連絡先	532

期	目標	実績	課題
第1期	待避所及び拡幅箇所の測量及び設計の委託業務の精査	道路詳細測量、用地測量業務の発注及び側溝改修箇所の精査	待避所、改修箇所の詳細設計の精査と、側溝改修箇所の工事発注
第2期	待避所、改修箇所の詳細設計の精査と、側溝改修箇所の工事発注 待避所箇所の用地交渉	待避所、改修箇所の詳細設計の精査と、側溝改修箇所の工事発注完了 待避所箇所の用地交渉開始	側溝改修箇所の工事日程調整
第3期	側溝改修箇所の工事開始、待避所箇所の用地交渉承諾	側溝改修工事の実施 拡幅工事の詳細設計と地権者説明	・用地買収及び物件補償調査
第4期	詳細設計を固めて、潰れ地面積と補償額を算定し、用地の交渉を行う。	各戸を回り用地交渉を実施 全地権者に対して大筋合意をいただいた。	工事実施に向けた地元区との調整が必要

事中評価																					
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 待避所設置箇所の土地売買できるよう、用地交渉を積極的に進める。	今後の方向性																				
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策） 待避所予定地の土地売買契約のため、用地補償費の要望。	方向性																				
	<table border="1"> <tr> <td>成果の方向性</td> <td>拡充</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td></td> <td>現状維持</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td></td> <td>縮小</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td></td> <td>休廃止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性</p>	成果の方向性	拡充	②	⑤	⑦		現状維持	③	⑥	⑨		縮小	④	⑧	⑩		休廃止	①		
成果の方向性	拡充	②	⑤	⑦																	
	現状維持	③	⑥	⑨																	
	縮小	④	⑧	⑩																	
	休廃止	①																			

評価年度	当年度
------	-----

評価の観点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定				
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定					
	チェック					4					4						4	A		
課題	都市計画道路の廃止に伴っての代替整備工事ではあるが、今回の改良箇所を実施しても依然狭隘箇所が存在している。改良後の交通安全の確保に向けて更なる安全対策が必要となる。															記号の定義				
																前年度総合評価判定				
																前年度評価シート整理番号				
総合評価	細施策評価前										細施策評価後									
	当路線の中で7か所の改良工事が実施されれば、通過交通の安全が図られるものと思われます。局所改良ではありますが、効果は大きいと思います。										当路線の中で7か所の改良工事が実施されれば、通過交通の安全が図られるものと思われます。局所改良ではありますが、効果は大きいと思います。									
	前年度改革・改善策の実施状況										前年度細施策評価における今後の方向性									

改革・改善の方向性（ACTION）	細施策評価前					細施策評価後					
	成果の方向性	拡充		②	⑤	⑦	成果の方向性	拡充		レ	
	現状維持		③	⑥	⑨		現状維持				
	縮小		④	⑧	⑩		縮小				
	休廃止	①					休廃止				
		皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性						皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性			

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	都市計画課長	細田 信一
---------	------------	---------	--------	-------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

#N/A

事務事業名	無電柱化事業	事業期間	平成 27 ~ 年度	整理番号	05030106
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	作成担当者名	岩崎 研二
				連絡先	532

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり			
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実			
				細施策	06	都市計画道路の整備			
				事務事業	06	無電線化事業			
	予算事業名			会計コード		款	項	目	事業
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	長野県電線類地中化協議会の決定による実施予定箇所に従い、計画的に無電柱化工事を施行する。茅野市内では茅野駅西口土地区画整理事業からさらに延伸し、県道弘沢茅野線、八子ヶ峰公園線（市役所前）を景観、防災面の向上を図る。							
	現状と背景 （どうして）	住みよいまちづくりや景観から無電柱化を進める。							
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象 （誰のために）	市民及び沿線住民						
		対象 （直接働きかける）	長野県						
		意図	道路に林立する電柱及び空中の電線をなくし、安全で快適な通行空間の確保、都市景観及び防災面の向上を図る。						
	手段・方法 （どうやって）	市単独では困難であるので、県事業や道路改良などと合わせて施工する。宮川茅野地区内の上川線整備事業に合わせ実施する。							
N （ ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値	
		活動指標	地中化調査事業（観音通線）第7期	負担金納付額（観音通線）	円	当年度負担金額／予算金額			100
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値	
		活動指標	地中化調査事業（観音通線）第7期	調査済延長（観音通線）	m	調査済延長			1,700

項	目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
実 施 状 況 （ D O ）	事業費等 (a)	円				922,914	3,000,000	
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
	一般財源	円				922,914	3,000,000	
	職員数	人				0.10		
	正規職員	人						
	嘱託職員	人						
臨時職員	人							
合計	人				0.10			
	対象（者）数							
	延利用（者）数 (b)							
	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
	受益者負担額	円						
	市民一人当たりのコスト	円	-	-	-	16.00	54.00	
O （ ）	活動指標	負担金納付額（観音通線）	目標	円			922,914	
			実績	円			922,914	
		達成率	%	-	-	-	100.00	
	成果指標	調査済延長（観音通線）	目標	m			1,700	
			実績	m			400	
		達成率	%	-	-	-	23.53	
		目標	-					
		実績	-					
		達成率	%	-	-	-	-	
	備考							

事務事業名	無電柱化事業	事業期間	平成 27 ~	年度	整理番号	05030106	
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	作成担当者名	岩崎 研二	連絡先	532

四 半 期 と の 管 理	期	目 標	実 績	課 題
	第1期			
	第2期			
	第3期			
	第4期			

事 中 評 価

の 管 理	当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 後 の 方 向 性	成 果 的 拡 充	②	⑤	⑦
	新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）		現 状 維 持	③	⑥	⑨
			縮 小	④	⑧	⑩
			休 廃 止	①		
			皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性			

評価年度

評 価 （ C H E C K ）	視 点	妥 当 性				有 効 性				効 率 性				総 合 評 価 判 定			
	評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2		3	4	判定
	チェック					4					4						4

事業費もかかるので、道路計画や他事業と合わせた無電柱化事業計画が必要である。

記号の定義
 A：計画どおり事業を進めることが適当
 B：事業の進め方に改善が必要
 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定
 前年度評価シート整理番号 05030106

細 施 策 評 価 前	細 施 策 評 価 後
他事業と合わせ実施できるよう、長野県電線類地中化計画へ載せる。	電線類地中化事業は、多額の事業費が必要となるために、都市計画道路や県道改良工事と合わせて行うことが有効と考える。茅野市独自の電線類地中化事業ではなく現在県事業として実施している。

前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性
----------------	--------------------

改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 （ A C T I O N ）	今 後 の 方 向 性	成 果 的 拡 充	②	⑤	⑦	成 果 的 拡 充				
	方 向 性	現 状 維 持	③	⑥	⑨	現 状 維 持			レ	
		縮 小	④	⑧	⑩	縮 小				
		休 廃 止	①			休 廃 止				
			皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性			
改 革 ・ 改 善 策		新規事業路線については、長野県電線類地中化計画へ載せ事業が実施できるよう、県へ要望する。宮川地区内では、上川橋線整備事業で電線地中化を実施する。				新規事業路線については、長野県電線類地中化計画へ載せ事業が実施できるよう、県へ要望する。宮川地区内では、上川橋線整備事業で電線地中化を実施する。				

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	都市計画課長	細 田 信 一
---------	------------	---------	--------	---------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

#N/A

事務事業名	省エネルギー照明推進事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	05030107
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	作成担当者名	岩崎研二	連絡先	532

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり			
				施策	01	第1節 安全で快適な道路・河川等の整備充実			
				細施策	06	都市計画道路の整備			
				事務事業	07	省エネルギー照明推進事業			
	予算事業名				会計コード	款	項	目	事業
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	都市計画道路に設置されている街路灯や、駅周辺施設の照明施設の器具をLEDに交換していきます。							
	現状と背景 （どうして）	街路灯や照明施設をLEDに改修することで、市や地元で負担する電気料金の削減を図るとともに、低炭素、省エネルギー化を推進する必要があります。							
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象 （誰のために）	市民、施設利用者、電気料金支払者（地元商業会等）						
		対象 （直接働きかける）	市民、施設利用者、電気料金支払者（地元商業会等）、沿道の商店主、関係機関、街路灯						
	意図	街路灯や照明施設をLED化に整備するとともに、電気料金負担を軽減します。あわせて環境保全への取り組みを進めます。							
	手段・方法 （どうやって）	平成27年度に、駅西口の市営地下駐車場内照明器具203箇所を、LED照明器具に取り替える工事を行います。							
N （ ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値	
		LED照明器具取替工事	取替箇所数	箇所	取替箇所数			203	
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値	
		電気料金の負担軽減	取替前後の料金対比	月%減	$(取替前料金 - 取替後料金) / 取替前料金 \times 100$			30	

項	目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
実 施 状 況	事業費等 (a)	円				8,792,000	2,000,000	
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
	一般財源	円				8,792,000	2,000,000	
	職員数	人				0.10	0.10	
O （ ）	正規職員	人						
	嘱託職員	人						
	臨時職員	人						
	合計	人				0.10	0.10	
	対象（者）数					55,435	55,435	
	延利用（者）数 (b)					55,435	55,435	
	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	159	50	
	市民一人当たりのコスト	円	-	-	-	157.00	49.00	
D （ ）	活動指標	取替箇所数	目標	実績	達成率			
			個所	203	203	100.00		
	成果指標	取替前後の料金対比	目標	実績	達成率			
			月%減	30	20	66.67		
			目標	-	-	-		
			実績	-	-	-		
備考								

事務事業名	省エネルギー照明推進事業	事業期間	平成 ~ 年度	整理番号	05030107
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	作成担当者名	岩崎研二
				連絡先	532

期	目標	実績	課題
第1期	・設計にあたっての、設計見積りの依頼	・設計見積り依頼実施	・設計書作成
第2期	・設計書作成及び発注。 ・工事入札の実施。	・工事入札実施、工事日程調整	・日程及び工程表の作成。
第3期	・工程表による工事実施。	・工事完了検査の実施	・LED化工事完了に伴い、経費の変化を調査
第4期	・今後のLED化工事の選定箇所を検討		・LEDによる電気量削減効果が予想した4割削減に至らなかった(2割削減)

事中評価						
の 管 理	当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 後 の 方 向 性	拡充	②	⑤	⑦
			現状維持	③	⑥	⑨
			縮小	④	⑧	⑩
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)		休廃止	①		
皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性						

評価年度																	総合評価判定	
評 価 課 題 (C H E C K)	視点	妥当性					有効性					効率性					A	
	評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定		
	チェック					4					4					4		
課題	既存の街路照明等を全てLED化するには、多額の予算が必要となる。また、LEDでも、性能の良いものを採用する事も重要となる。また、道路照明だけでなく、駐車場等の施設照明も省エネを検討したい。															記号の定義	A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要	
	前年度総合評価判定															前年度評価シート整理番号	05030107	

総合評価										総合評価									
細施策評価前					細施策評価後					細施策評価前					細施策評価後				
LED化する順位を決定し、計画的に進める。										LED化する順位を決定し、計画的に進める。									
前年度改革・改善策の実施状況										前年度細施策評価における今後の方向性									

改革・改善の方向性(ACTION)										改革・改善の方向性(ACTION)									
今 後 の 方 向 性	成果の方向性	拡充		②	⑤	⑦	成果の方向性	拡充											
		現状維持		③	⑥	⑨		現状維持							④				
		縮小		④	⑧	⑩		縮小											
		休廃止	①					休廃止											
皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性										皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性									
予算や補助金も含め、財政課でLED化への整備計画を検討している。整備方向が次第、街路照明灯の省エネ化を進めたい。										予算や補助金も含め、財政課でLED化への整備計画を検討している。整備方向が次第、街路照明灯の省エネ化を進めたい。									

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	都市計画課長	細田信一
---------	------------	---------	--------	------